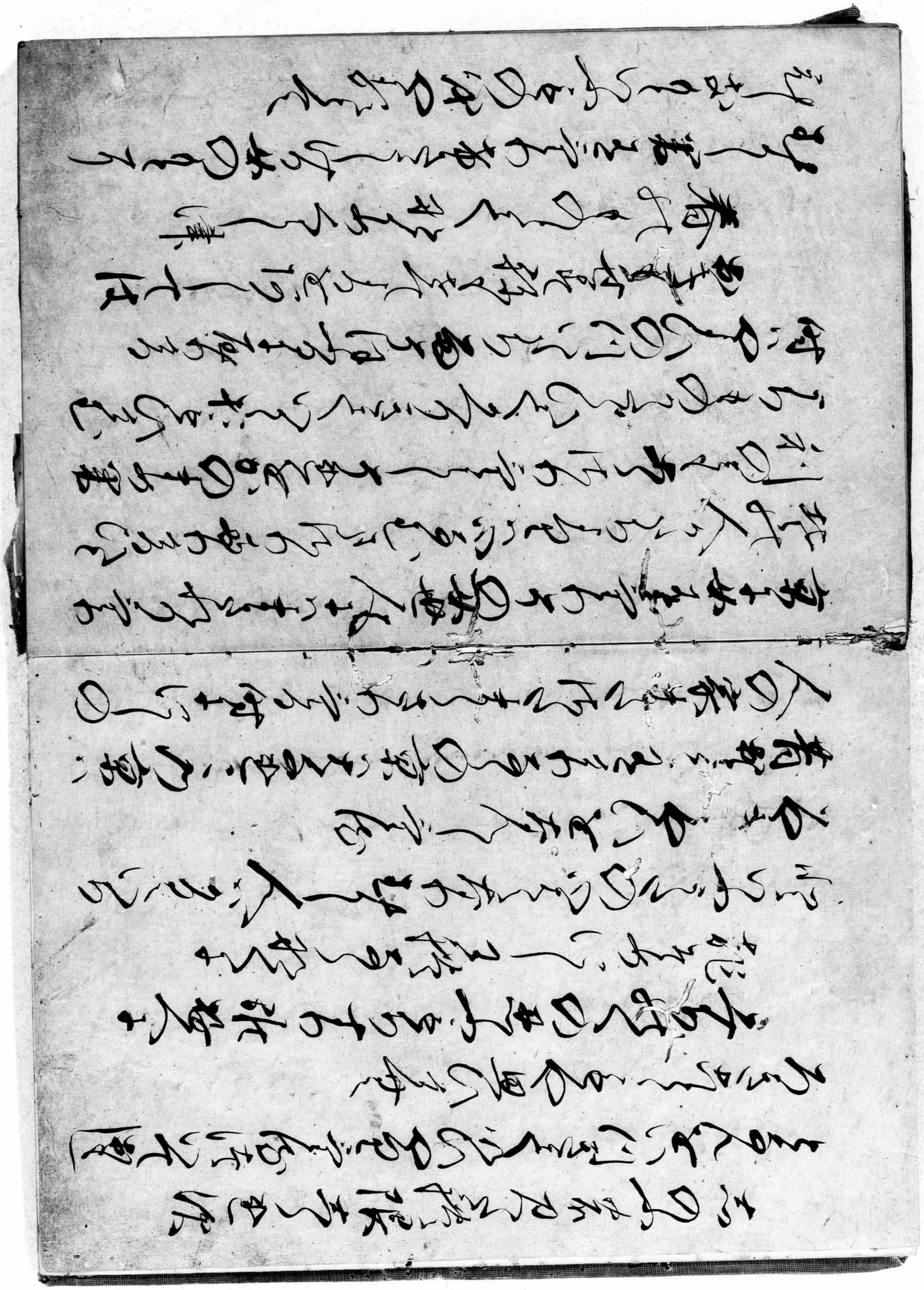
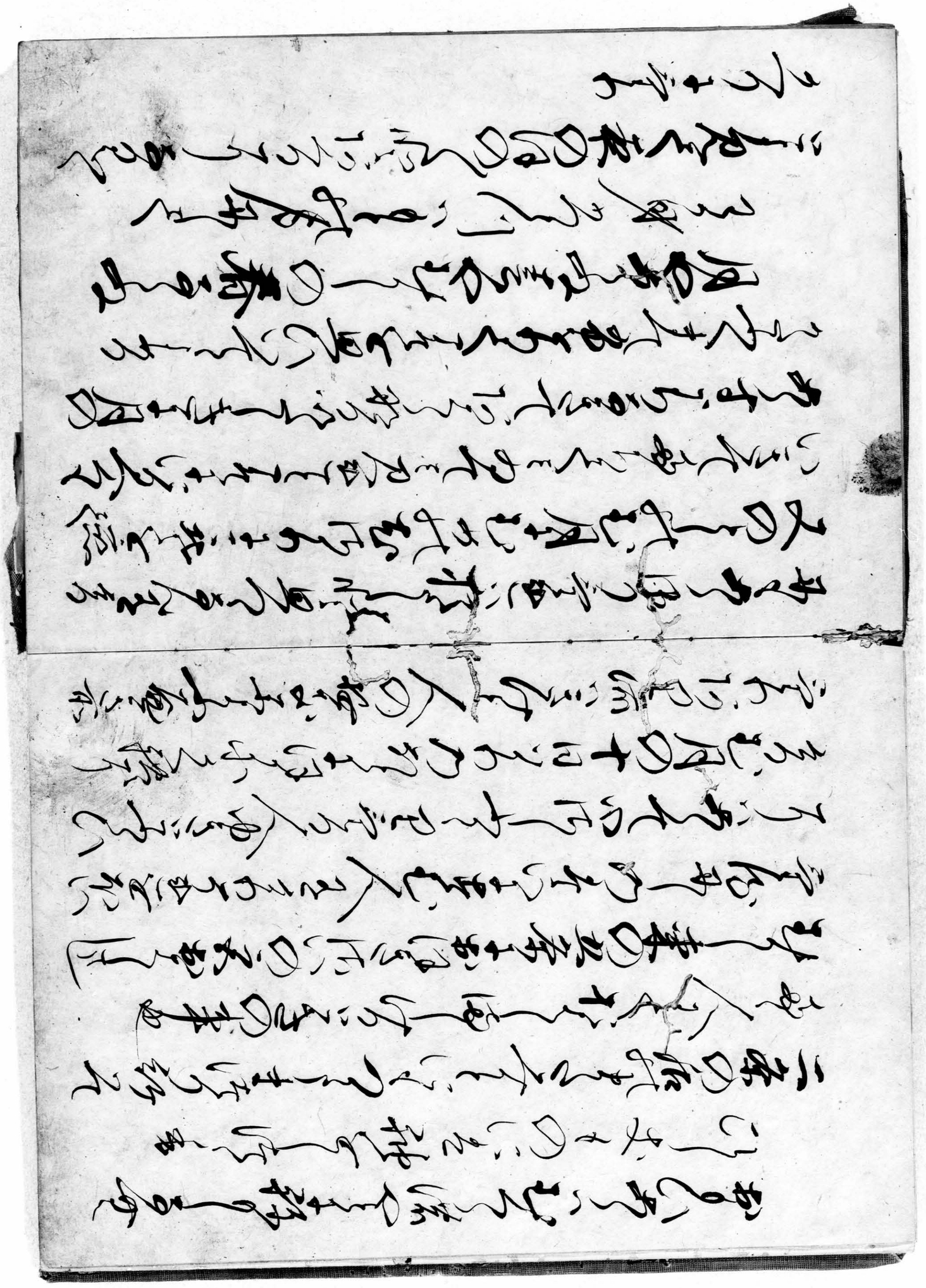
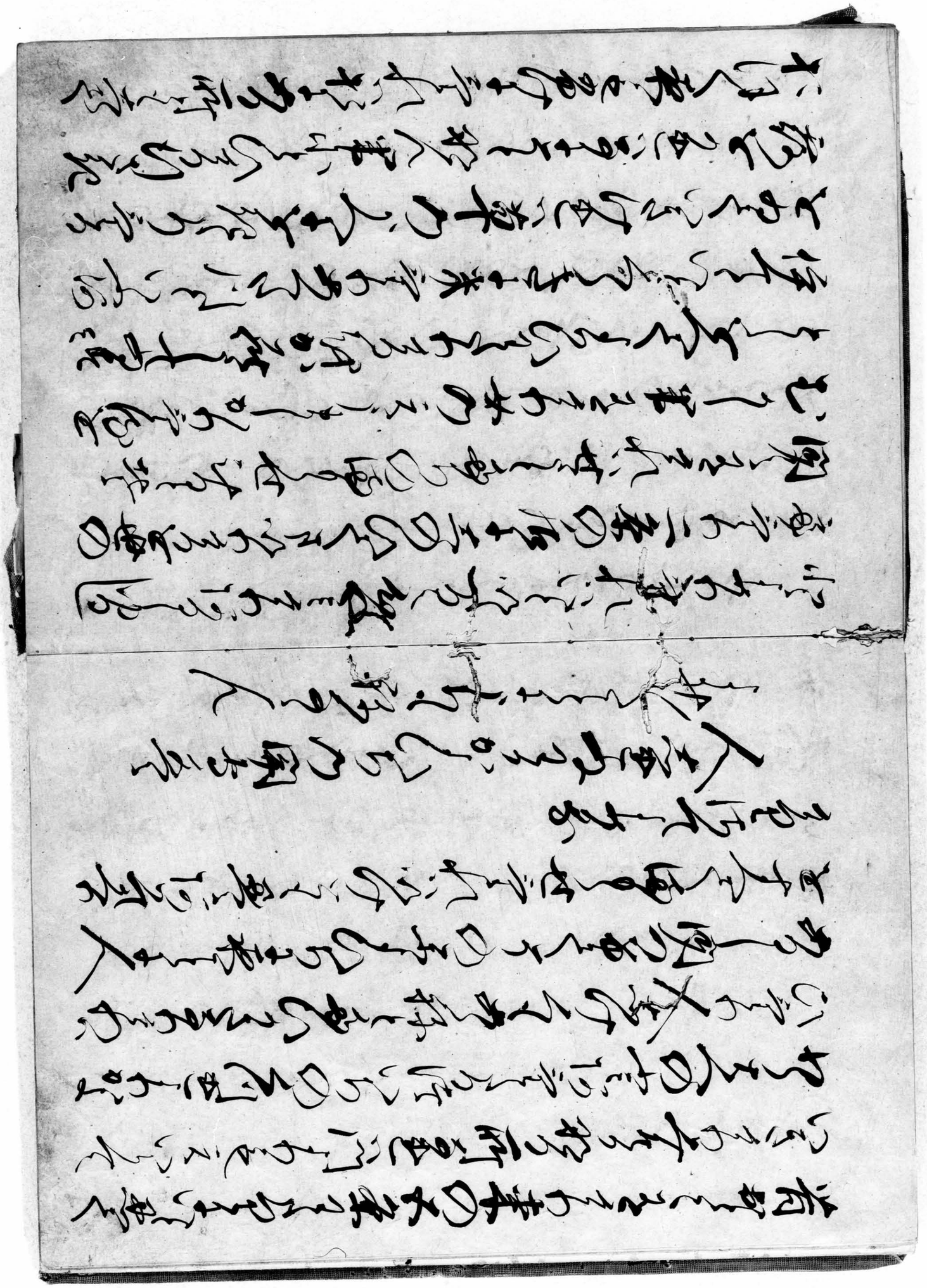
545
1
67

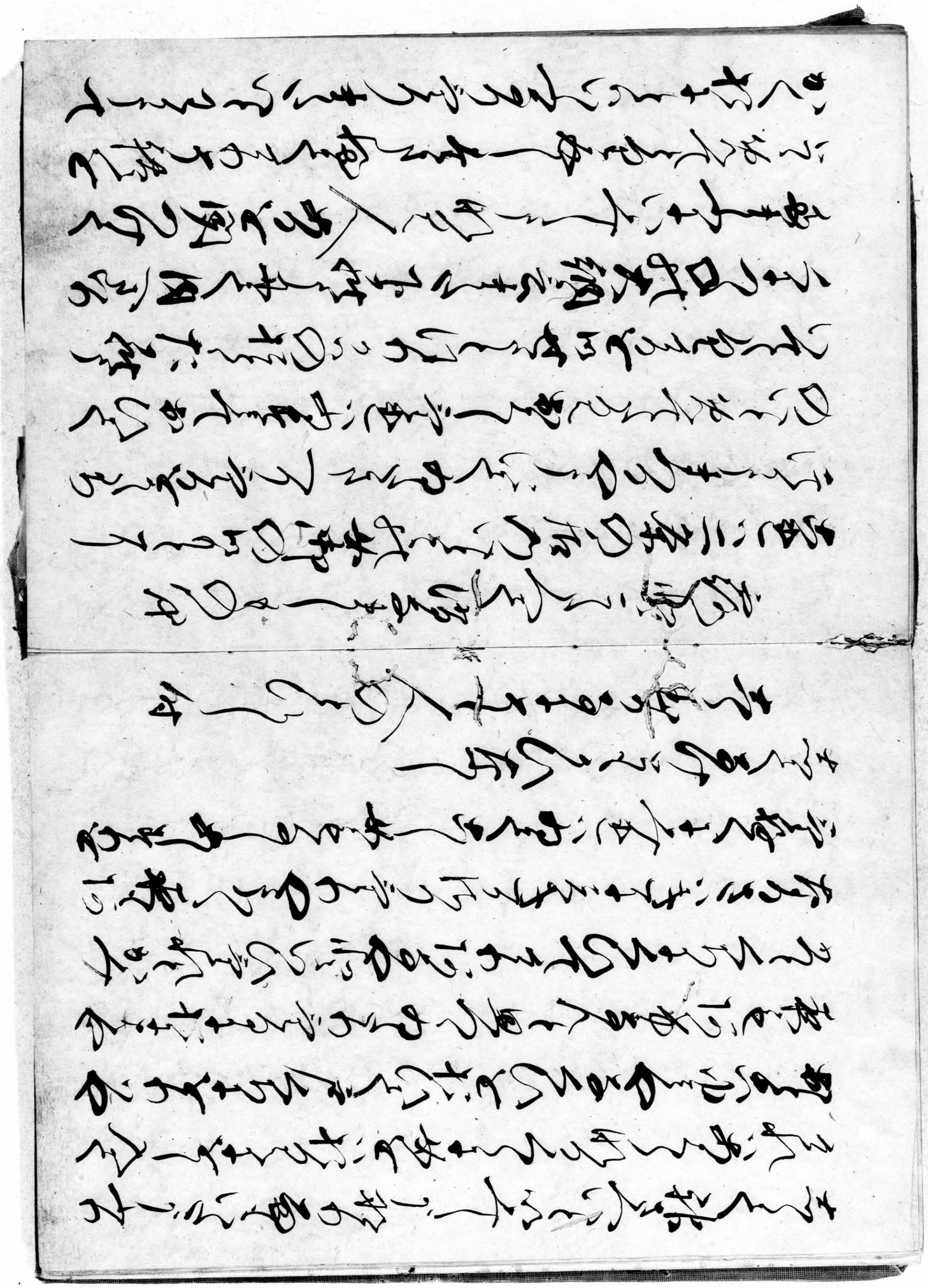
545
イ
67

むかし[illegible]
[illegible]
[illegible]









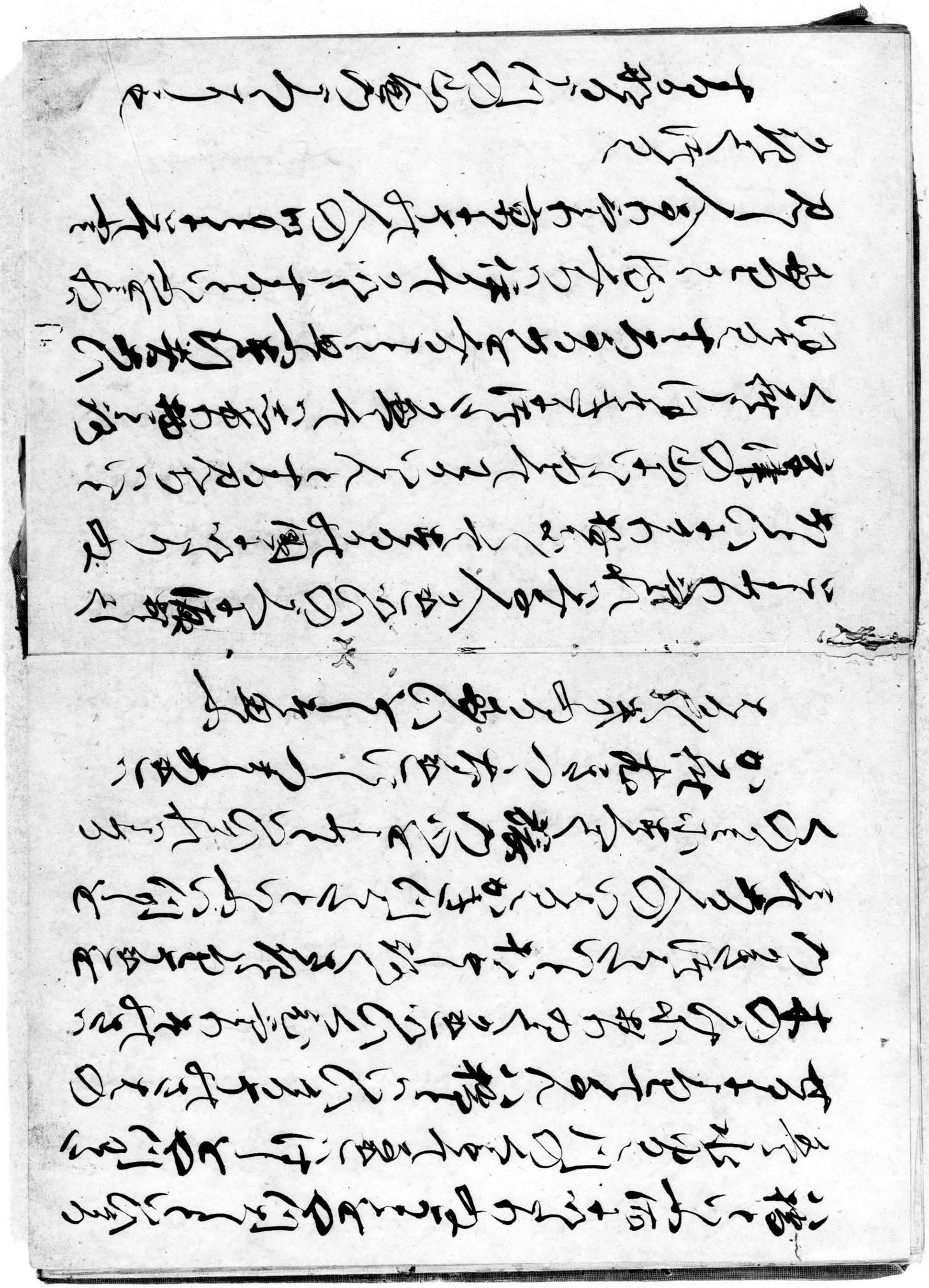
[illegible]

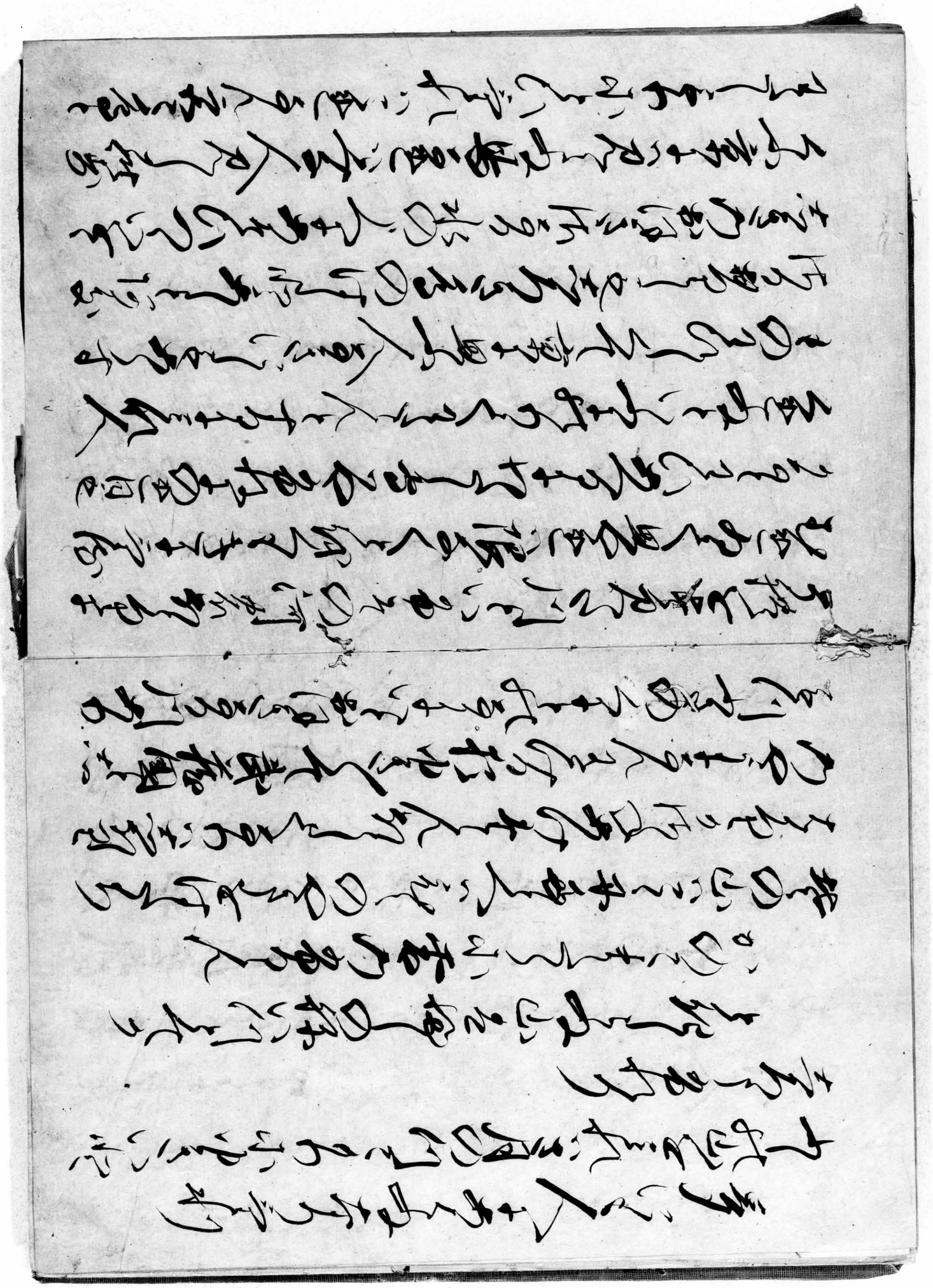
昔おもしろかりしかの京の
いとゝ[illegible]をもかの[illegible]のゆかんつゝを
なつかしき涙のいとゝ[illegible]
いとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

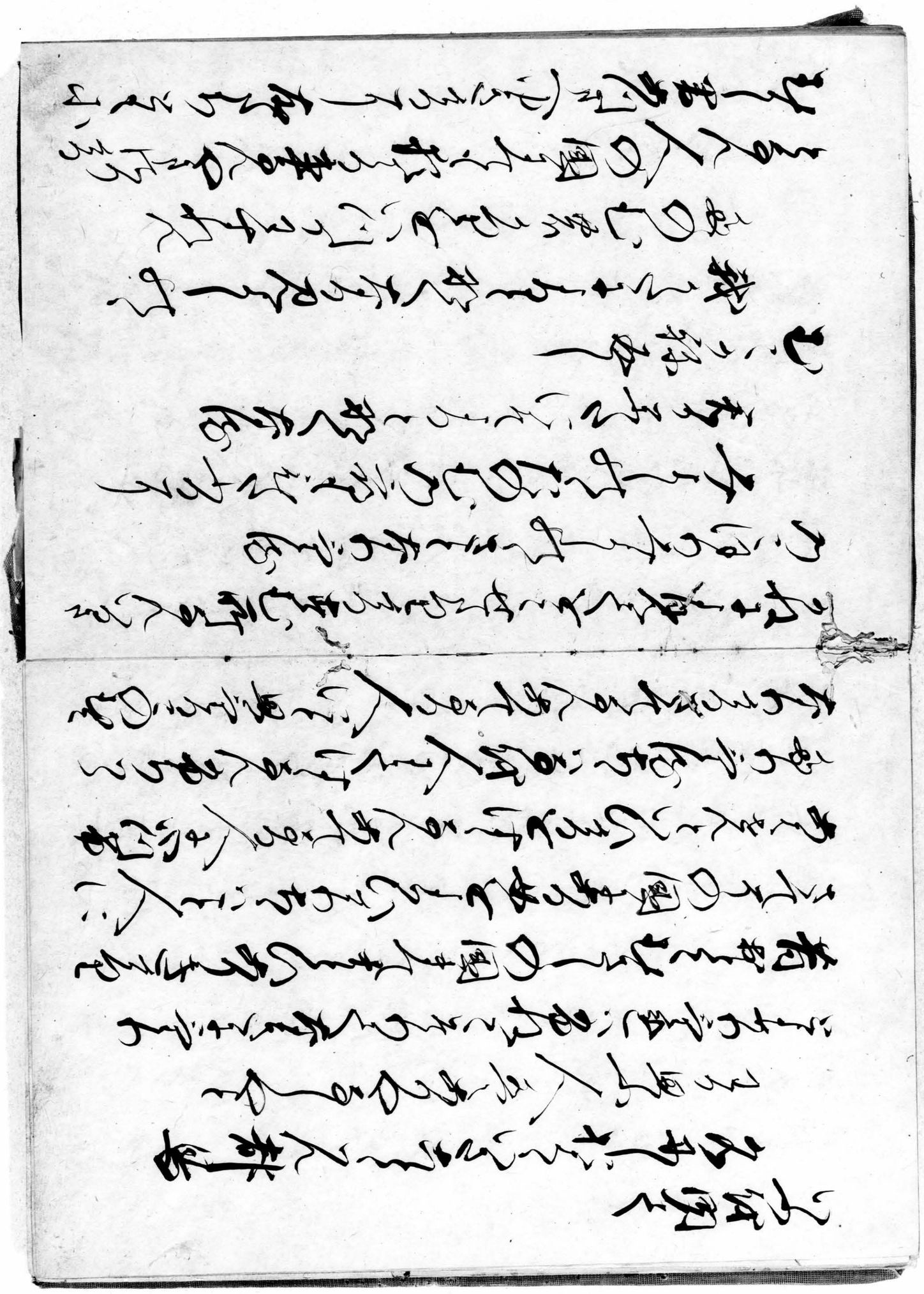
[illegible]
[illegible]
[illegible]

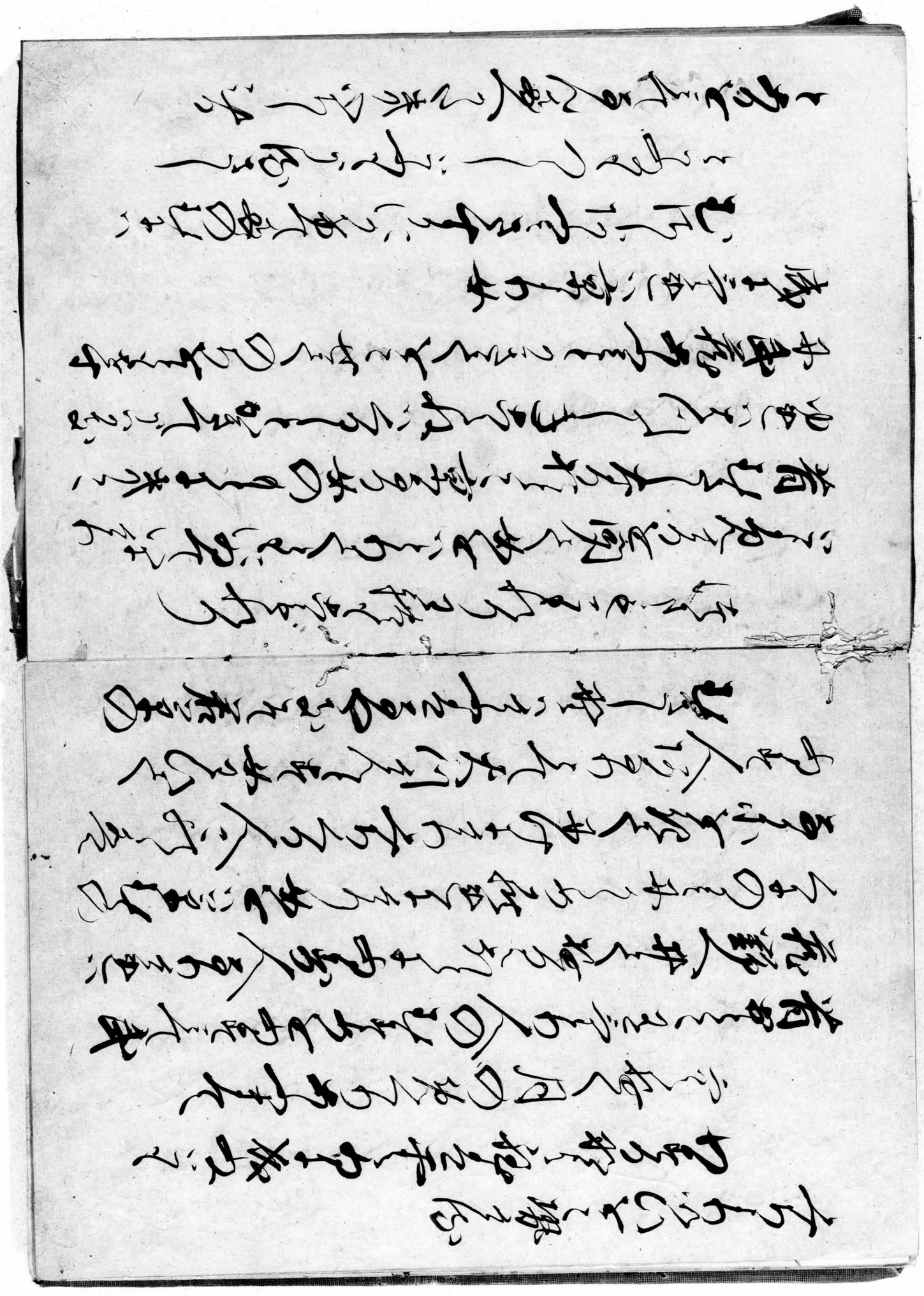
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

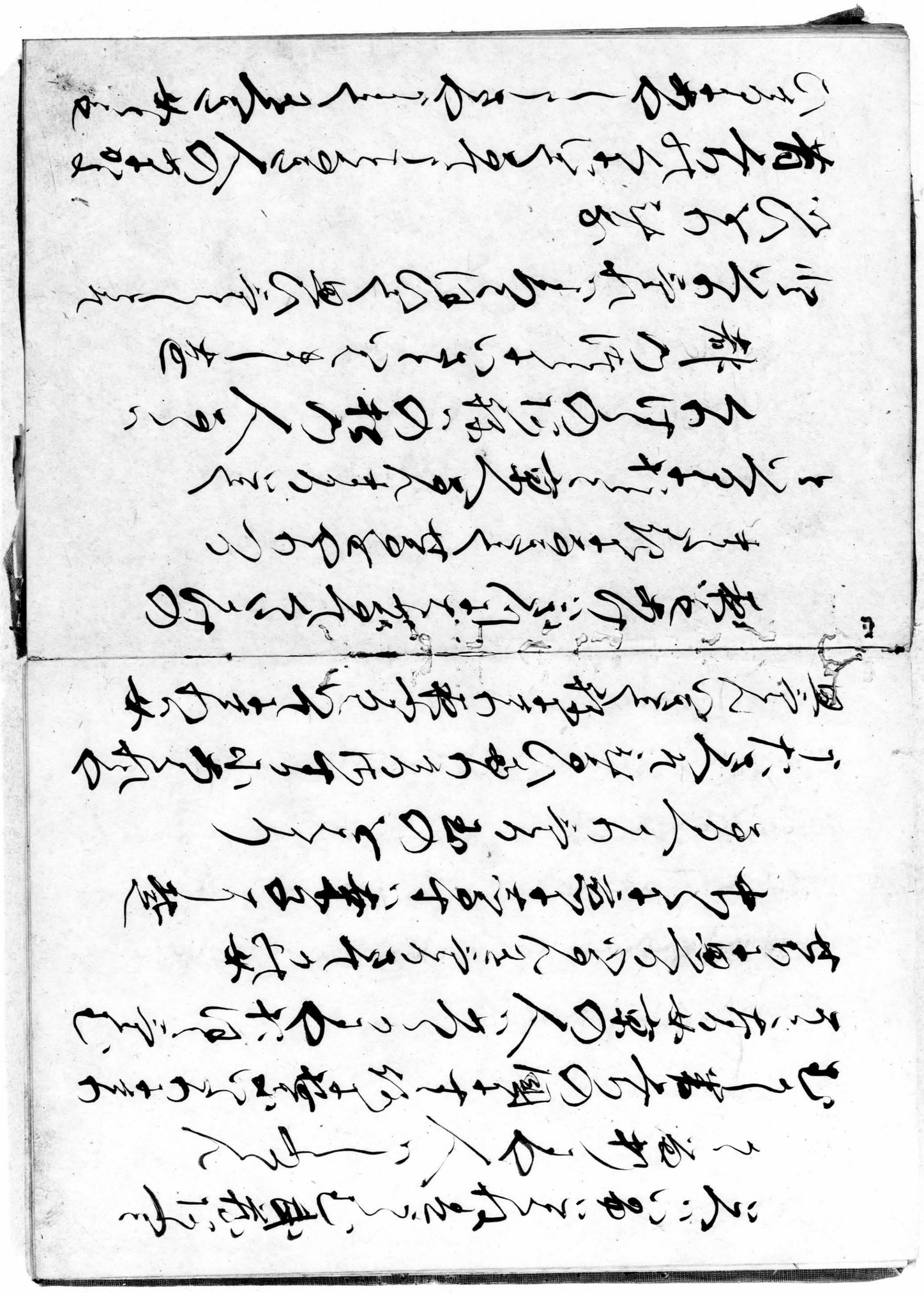
昔おもしろかりしかの京の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

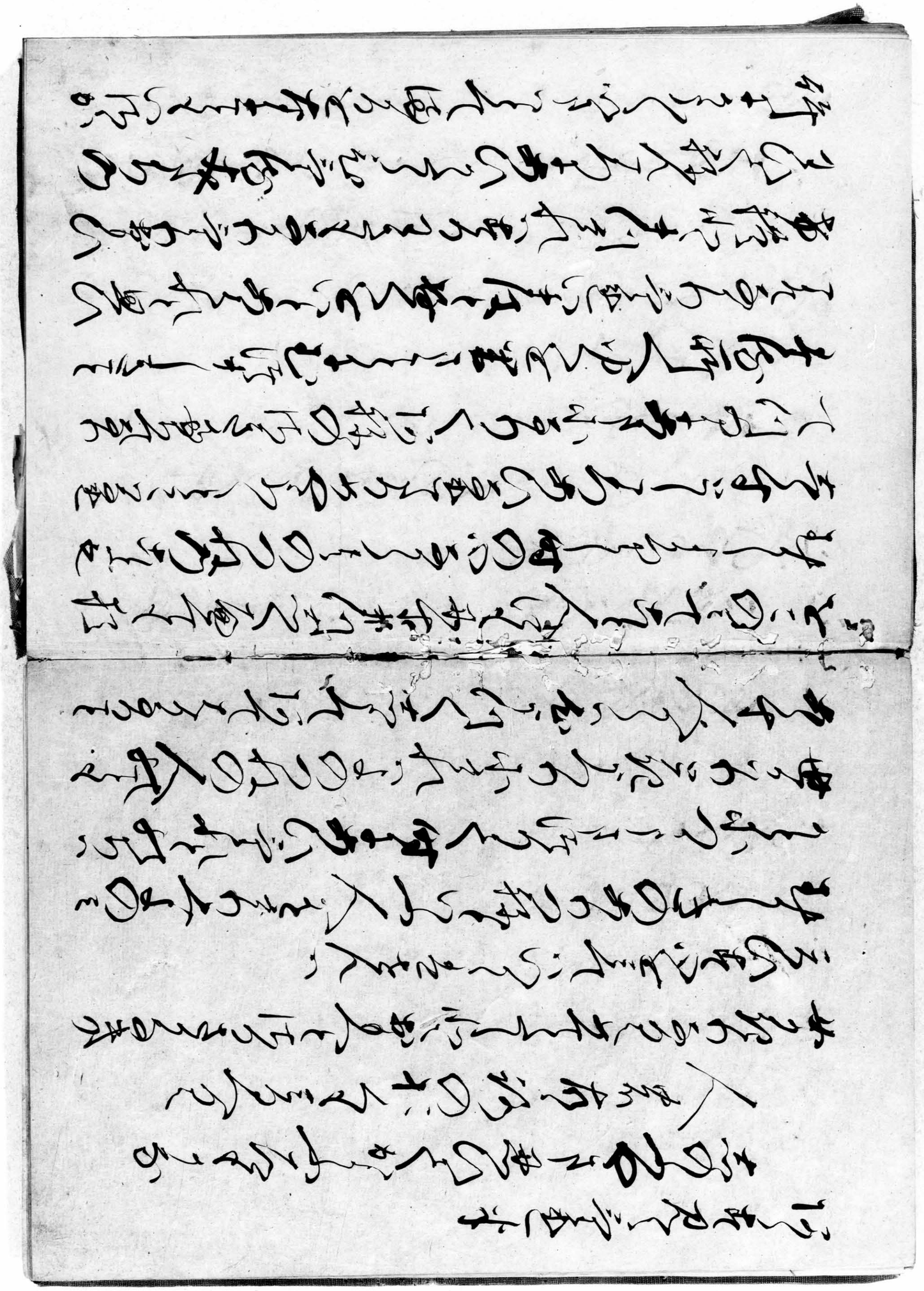


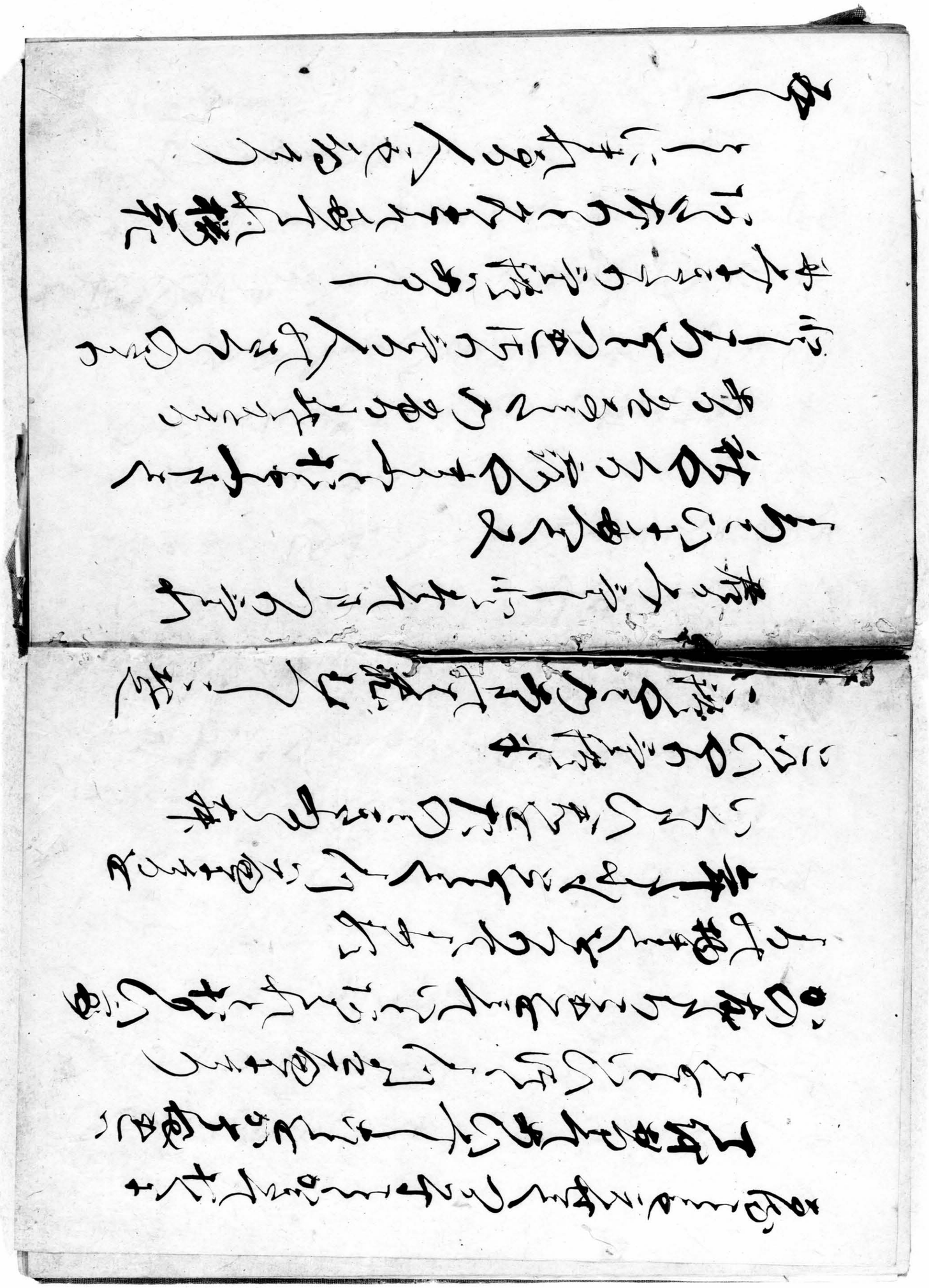


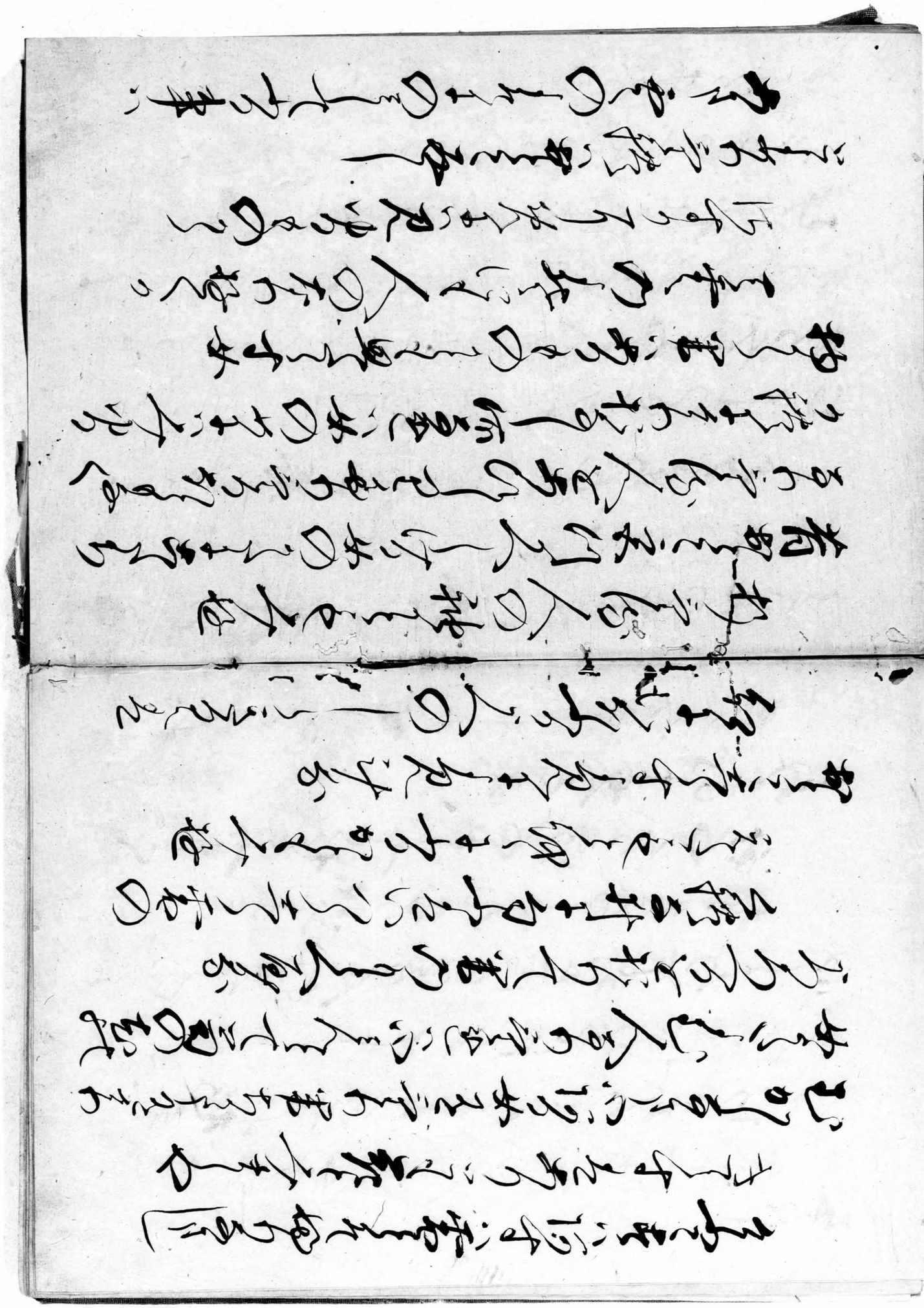


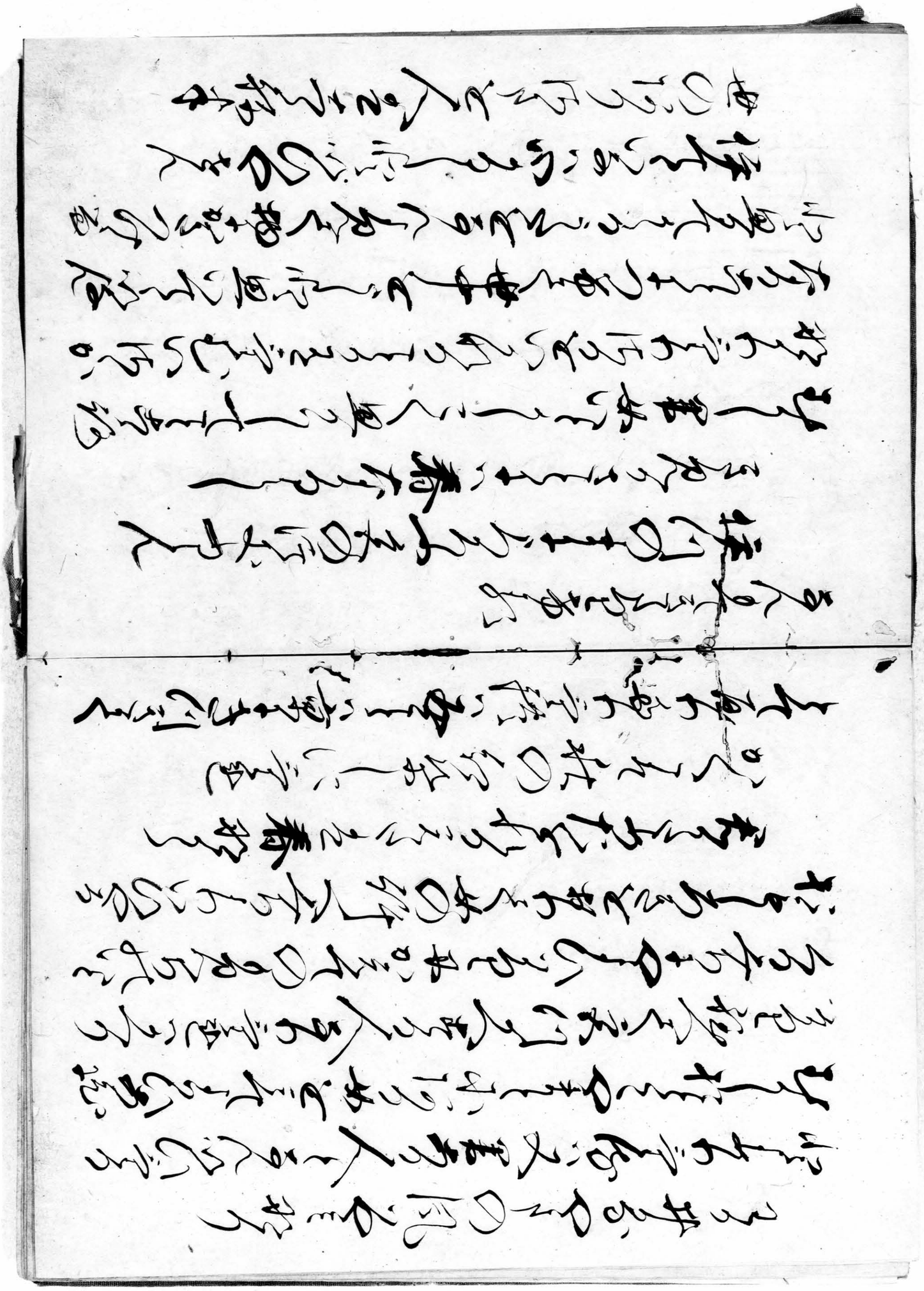












[illegible]

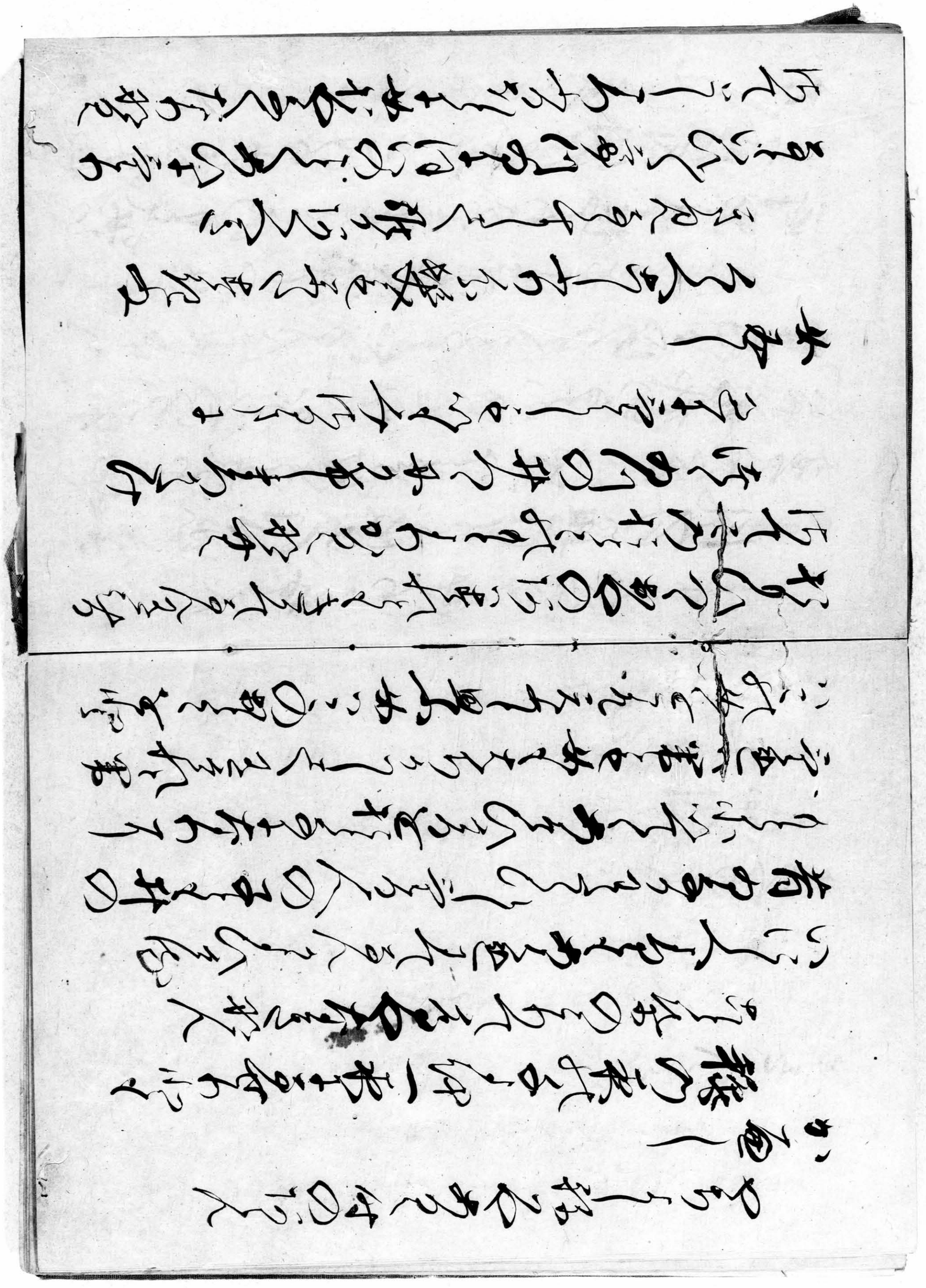
[illegible]

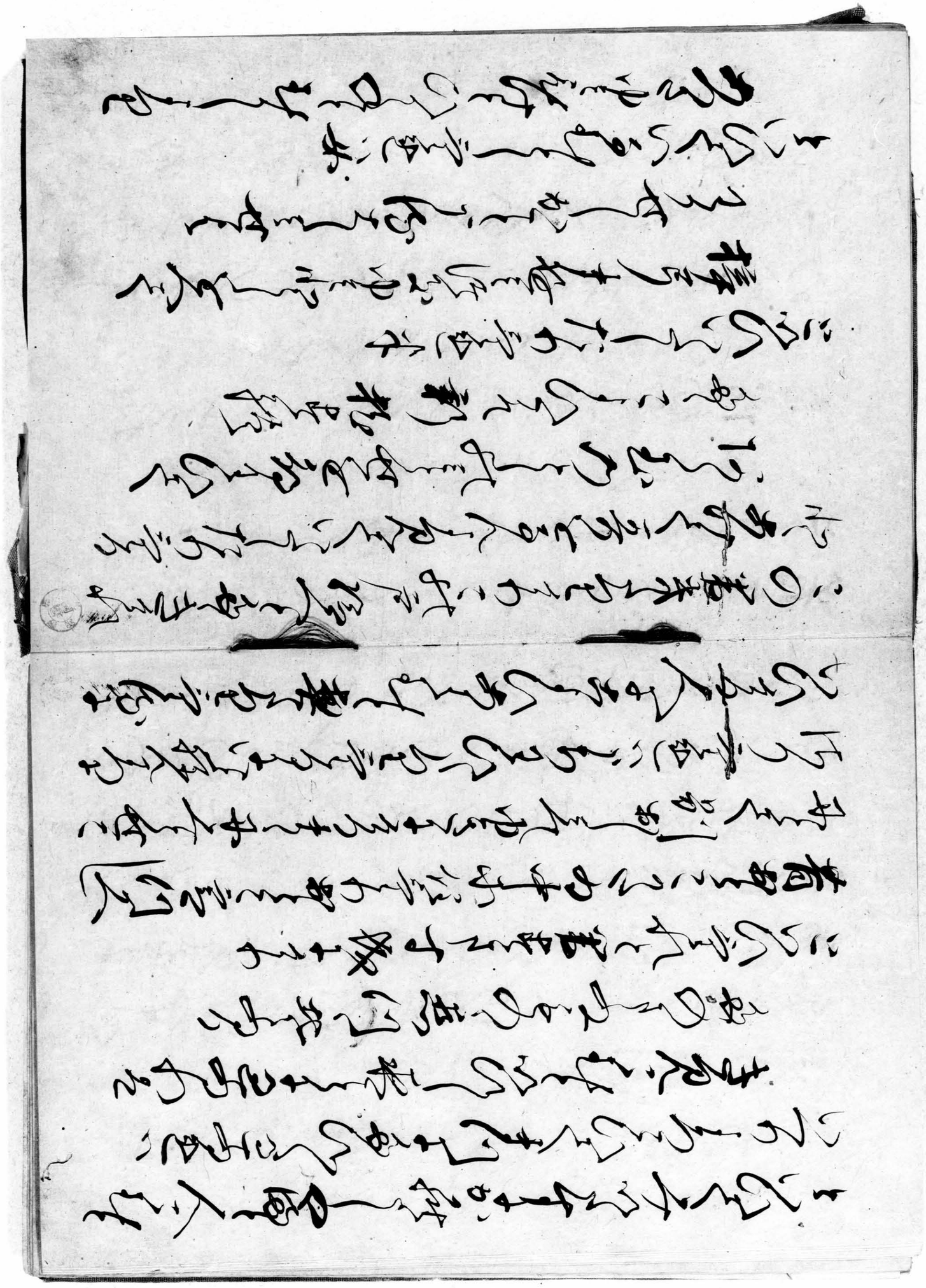
[illegible]

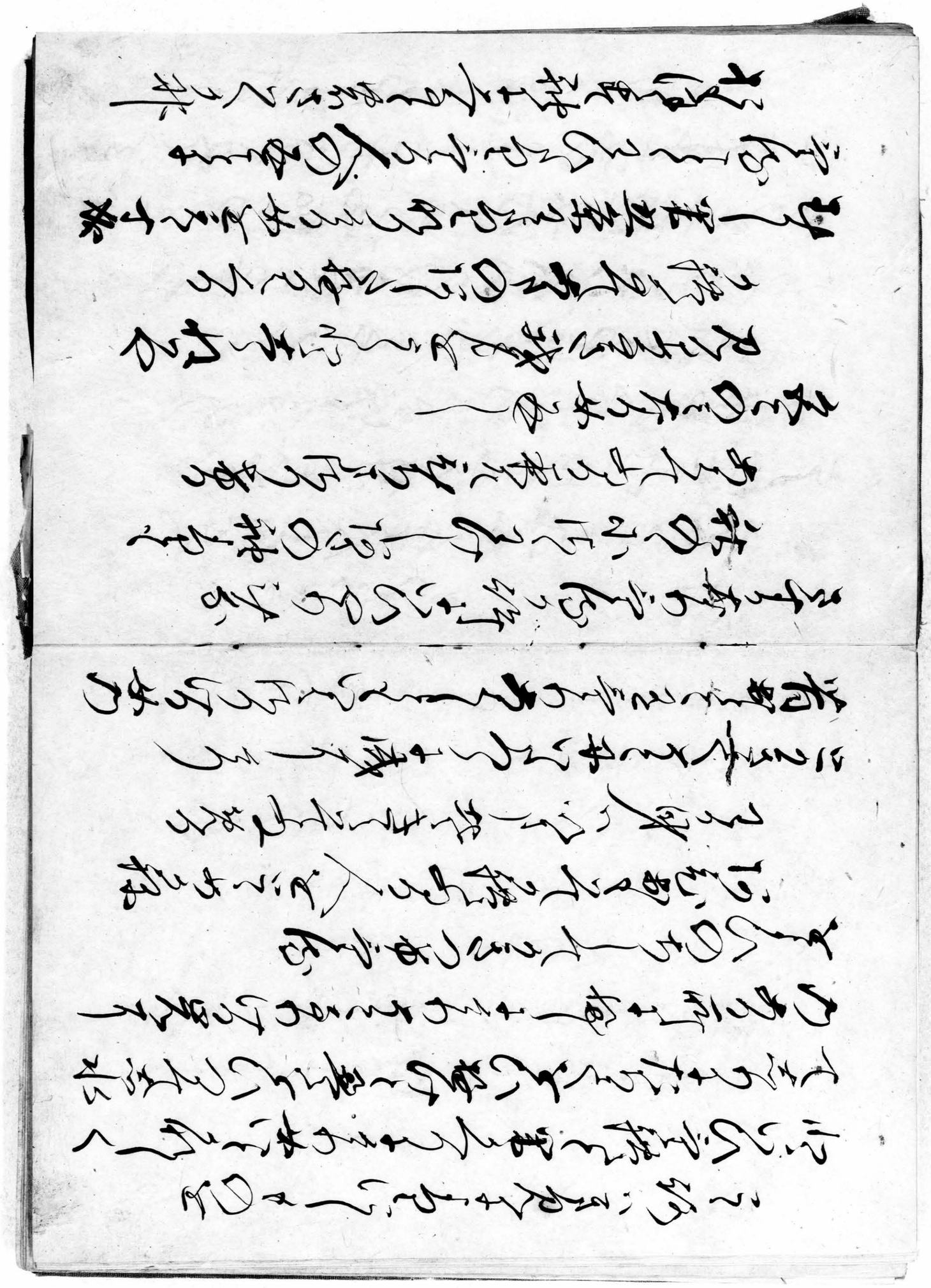
みくにたつるもろ[illegible]
わたるひとと思ふのうらのうり
ものもらわけよ物そそれ丈
歌

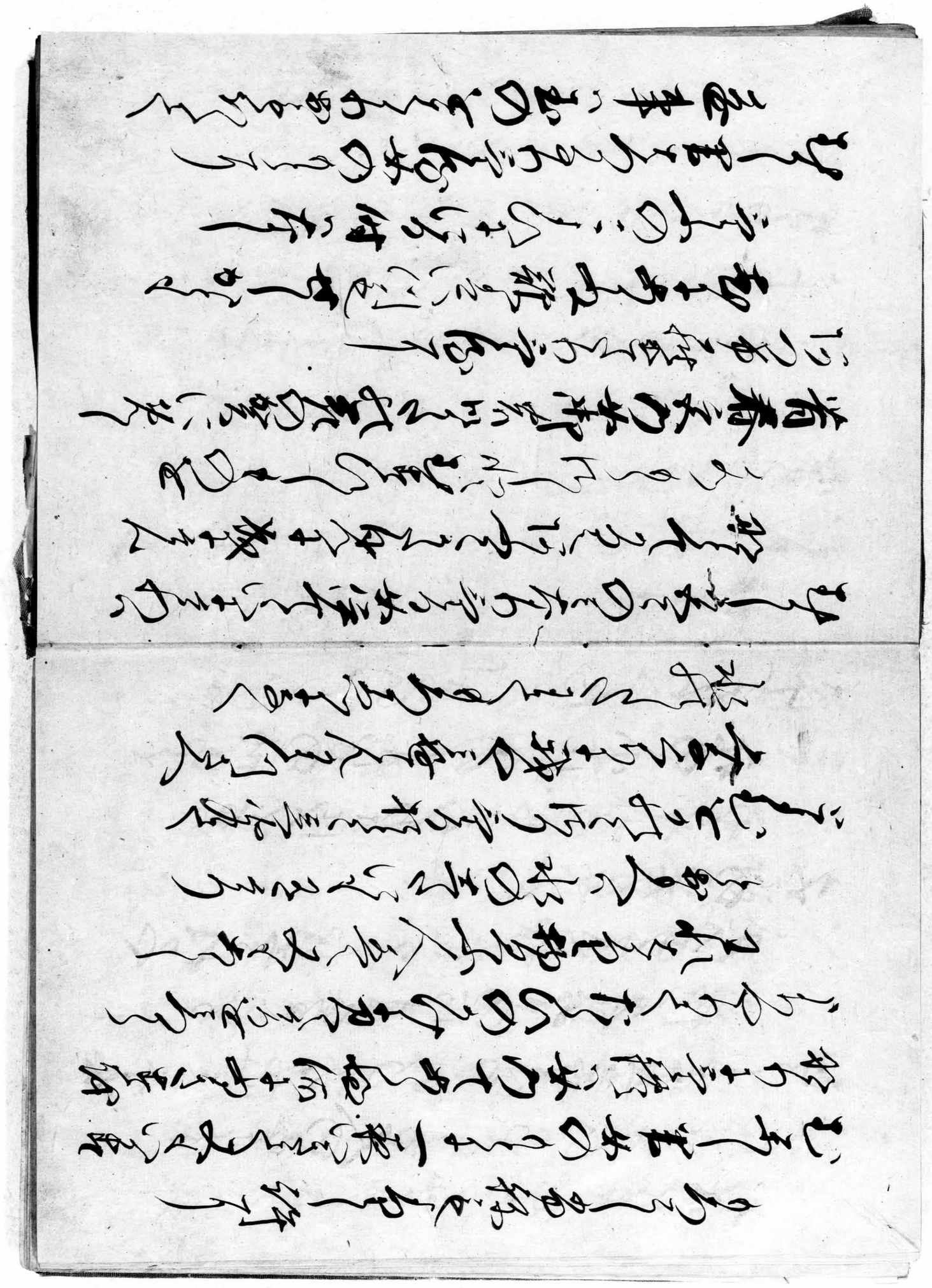
十六夜はたちのわたりのく
身はなるるうて歌よ[illegible]
はひこれとその世てうかれい
ずこたりよろう
もしけるうそ[illegible]

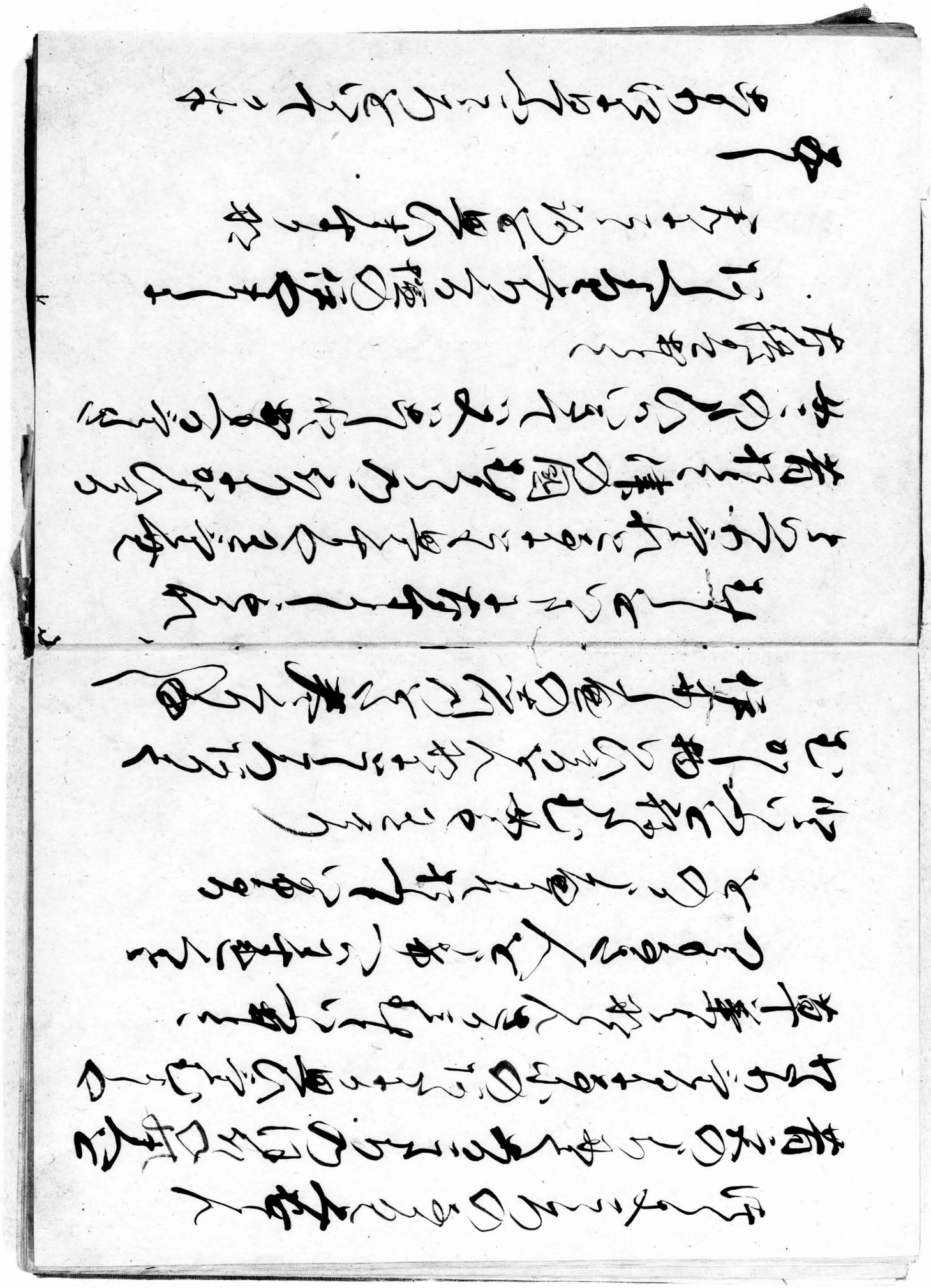
たのもしかりしもを
[illegible]人をいうを三[illegible]
かけうたんつ[illegible]
というこれいきわらひて[illegible]
あひそいふそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
たきのそ[illegible]
妹の[illegible]

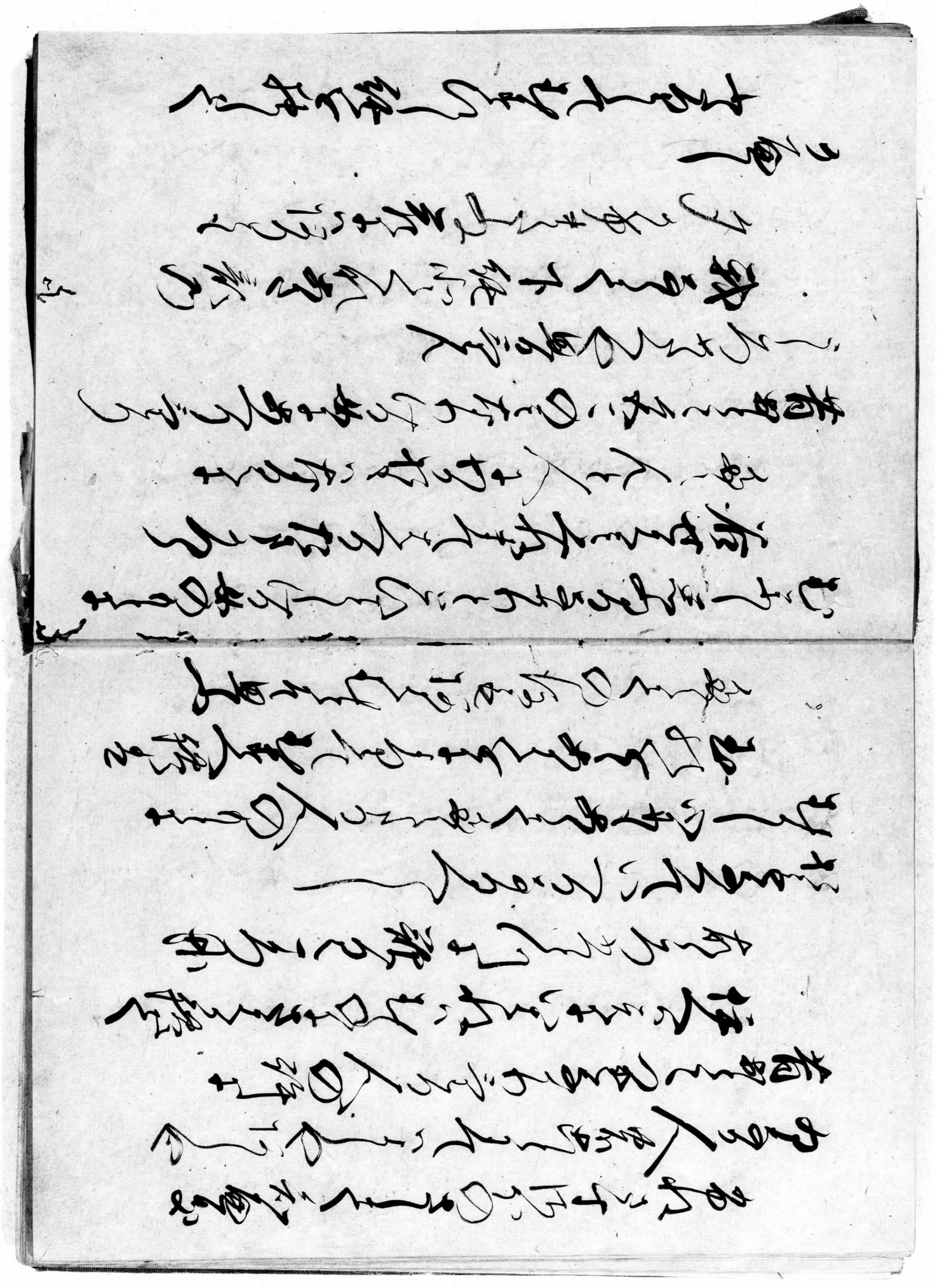


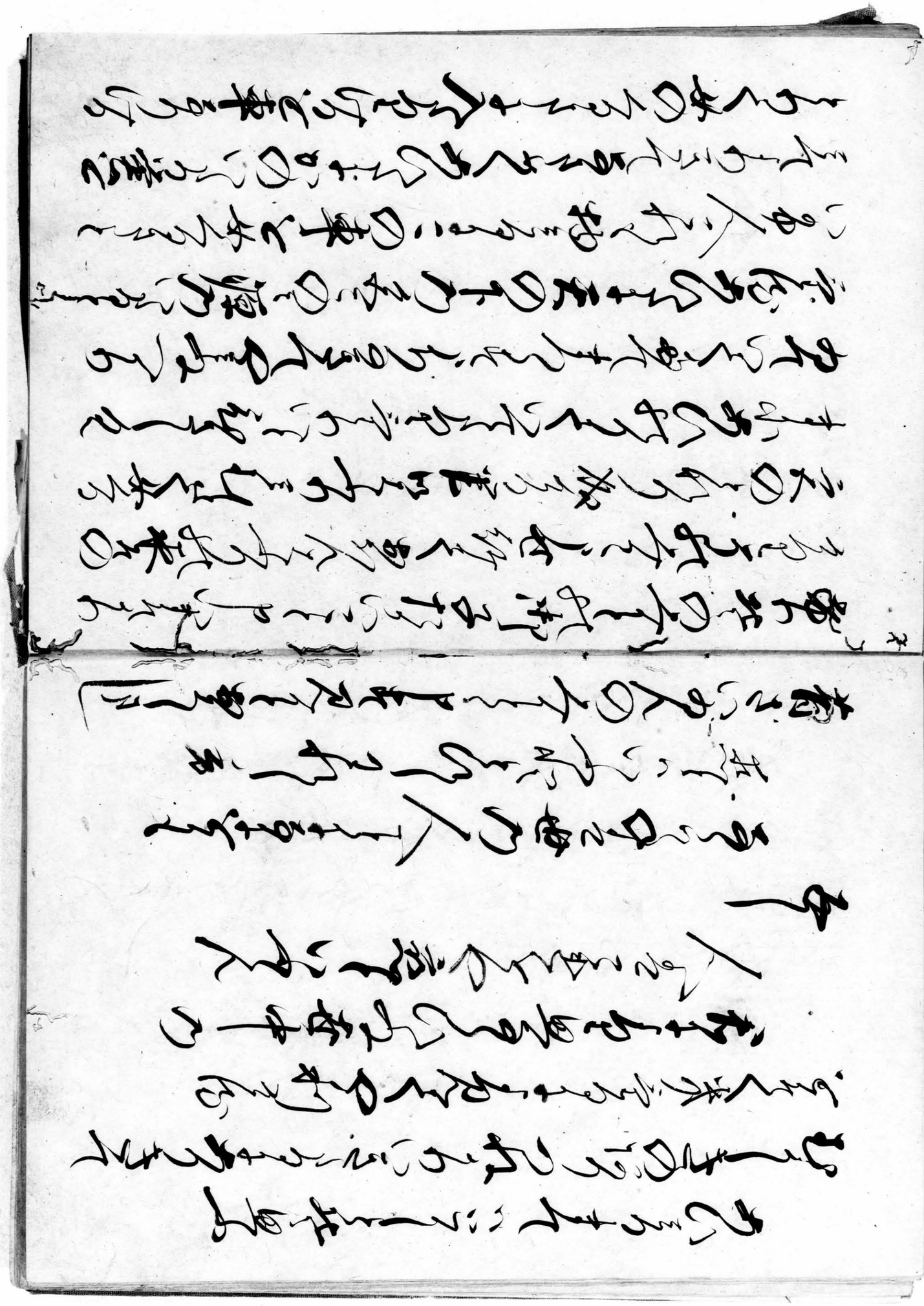


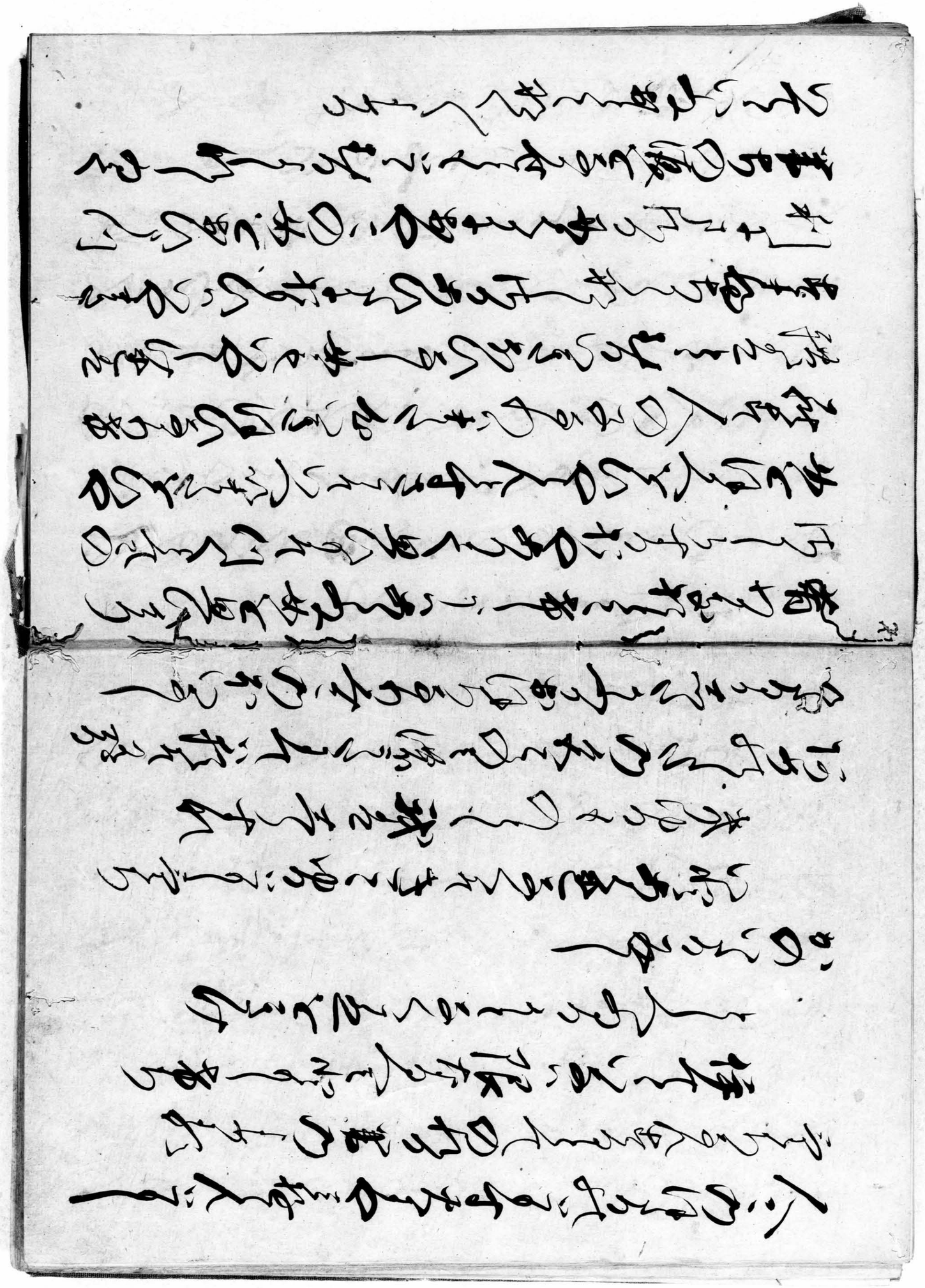


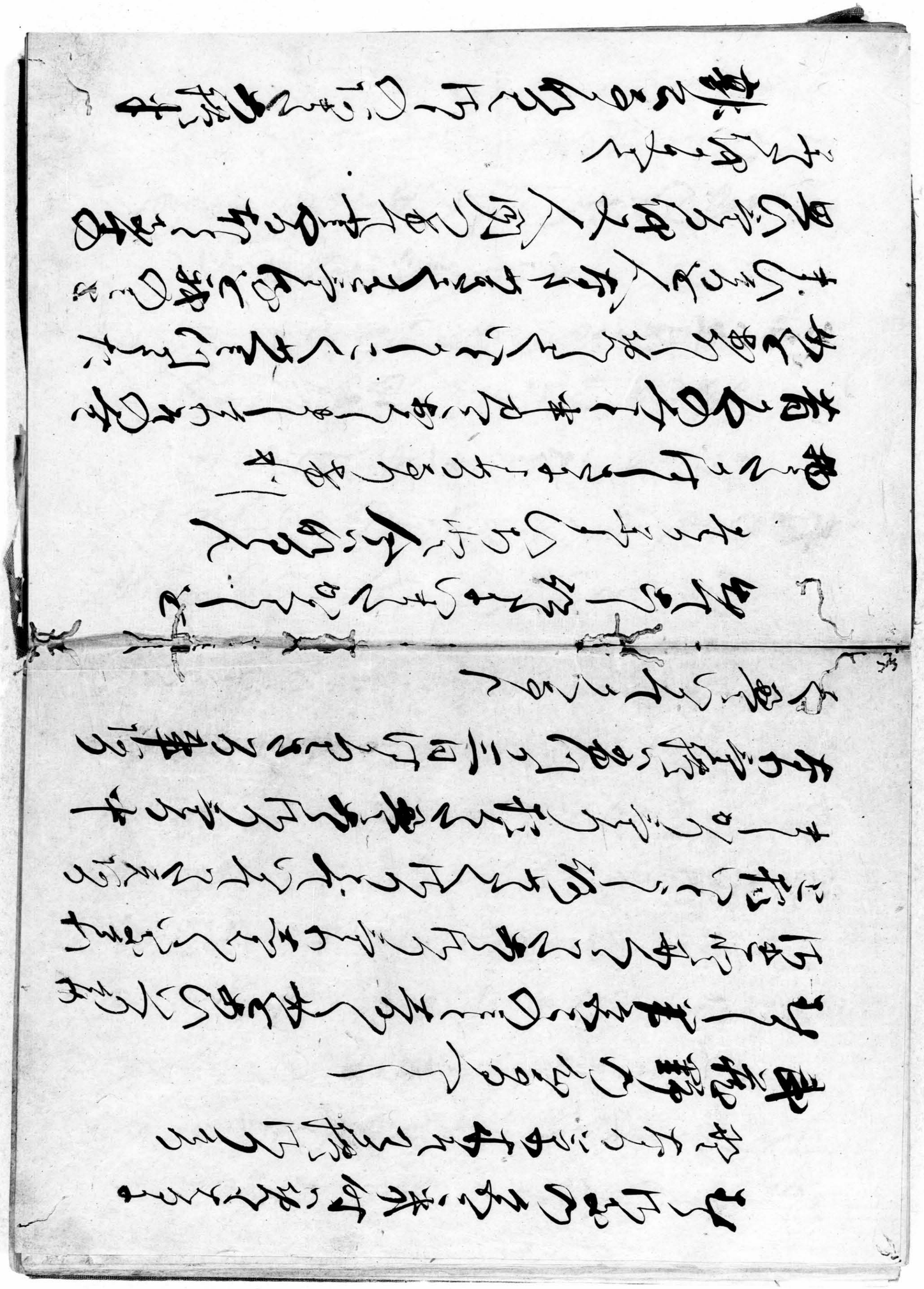


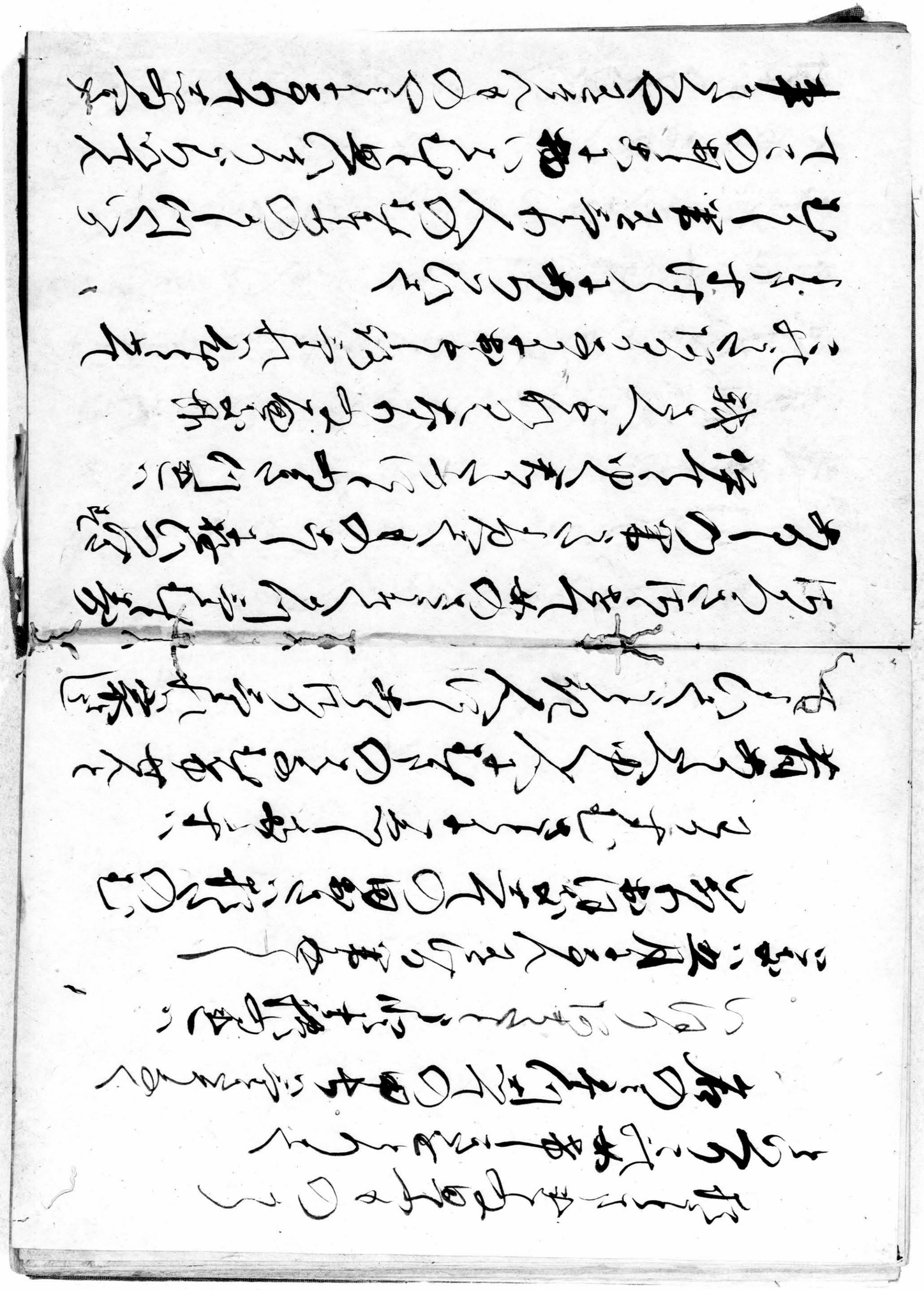


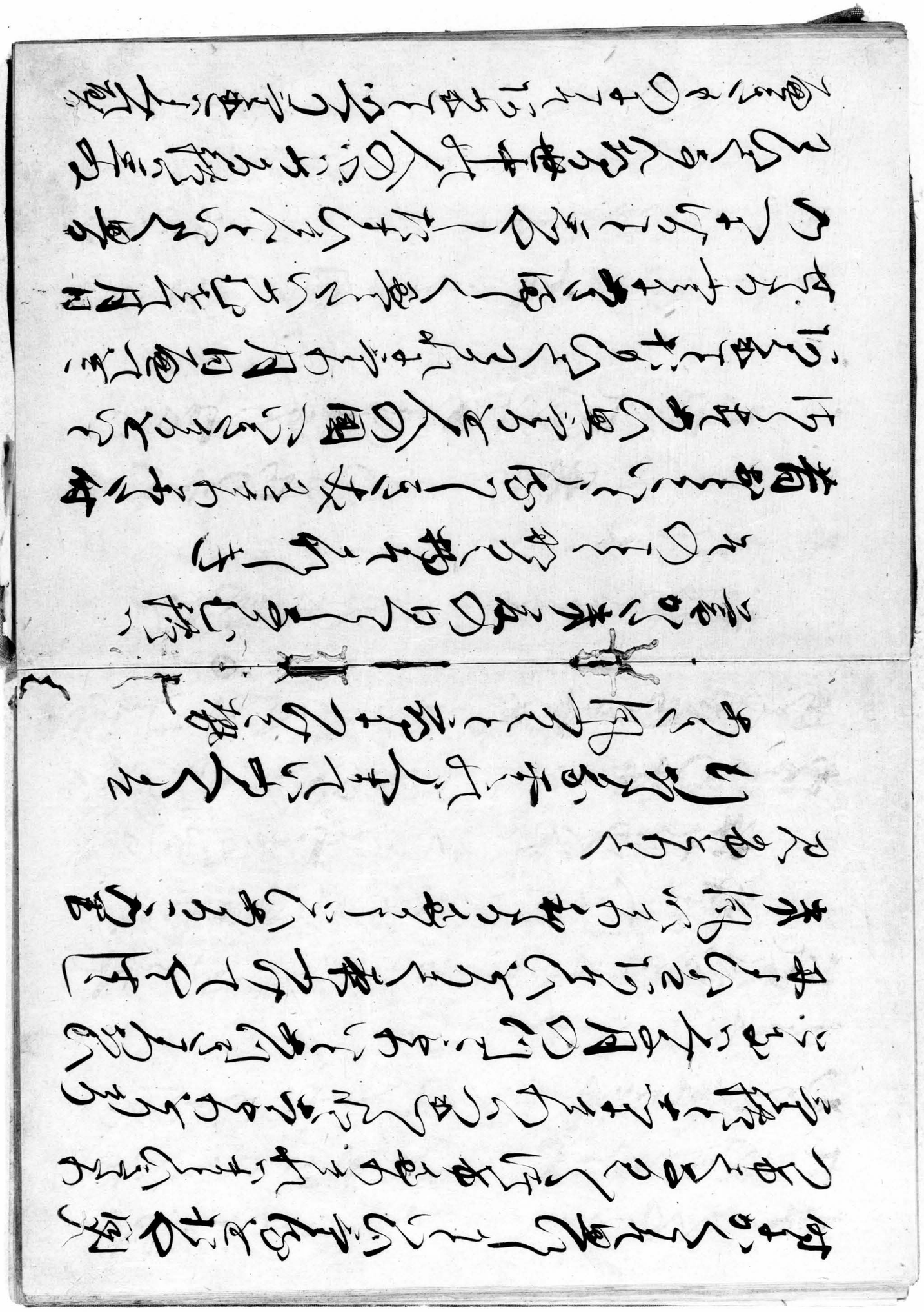








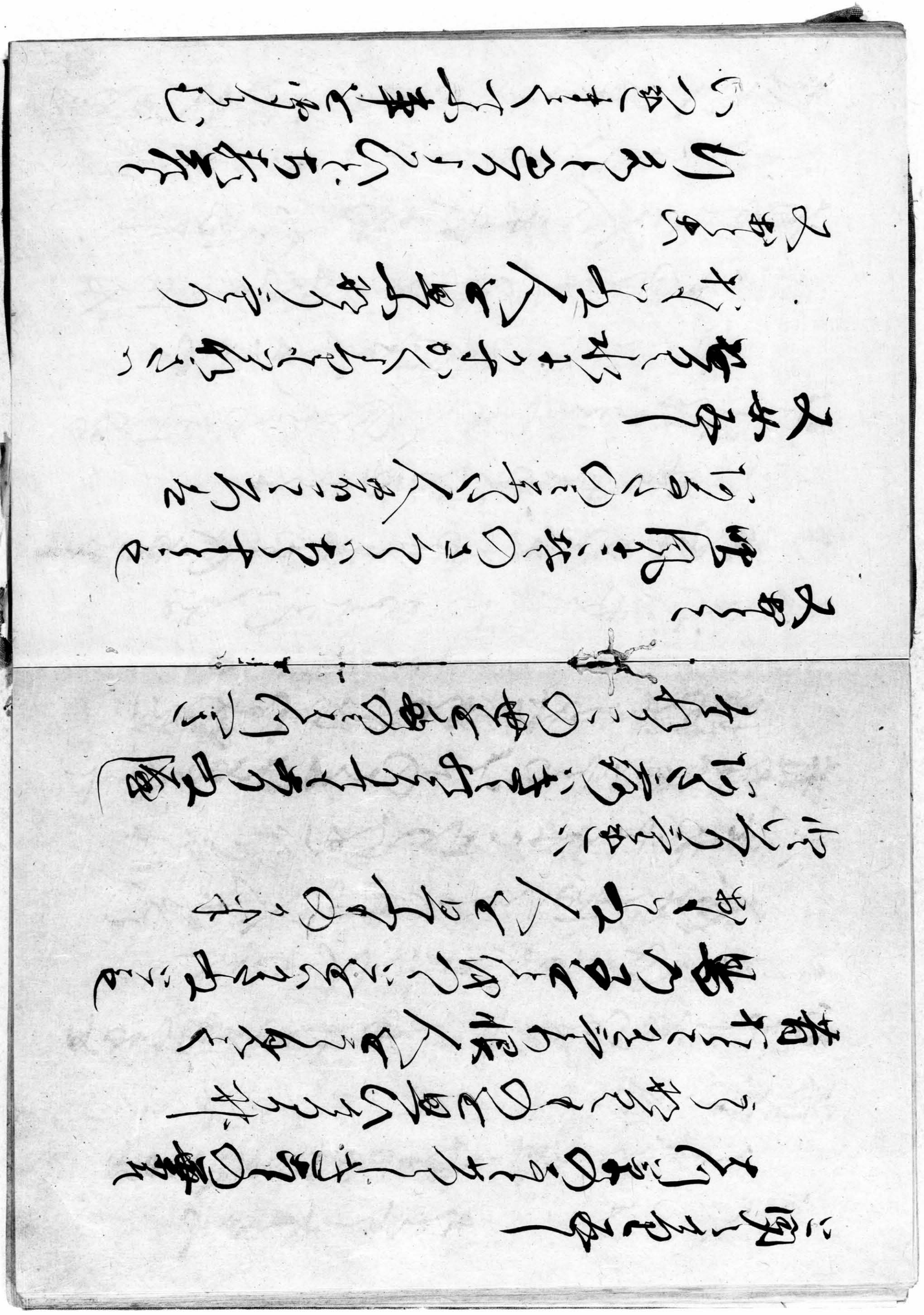


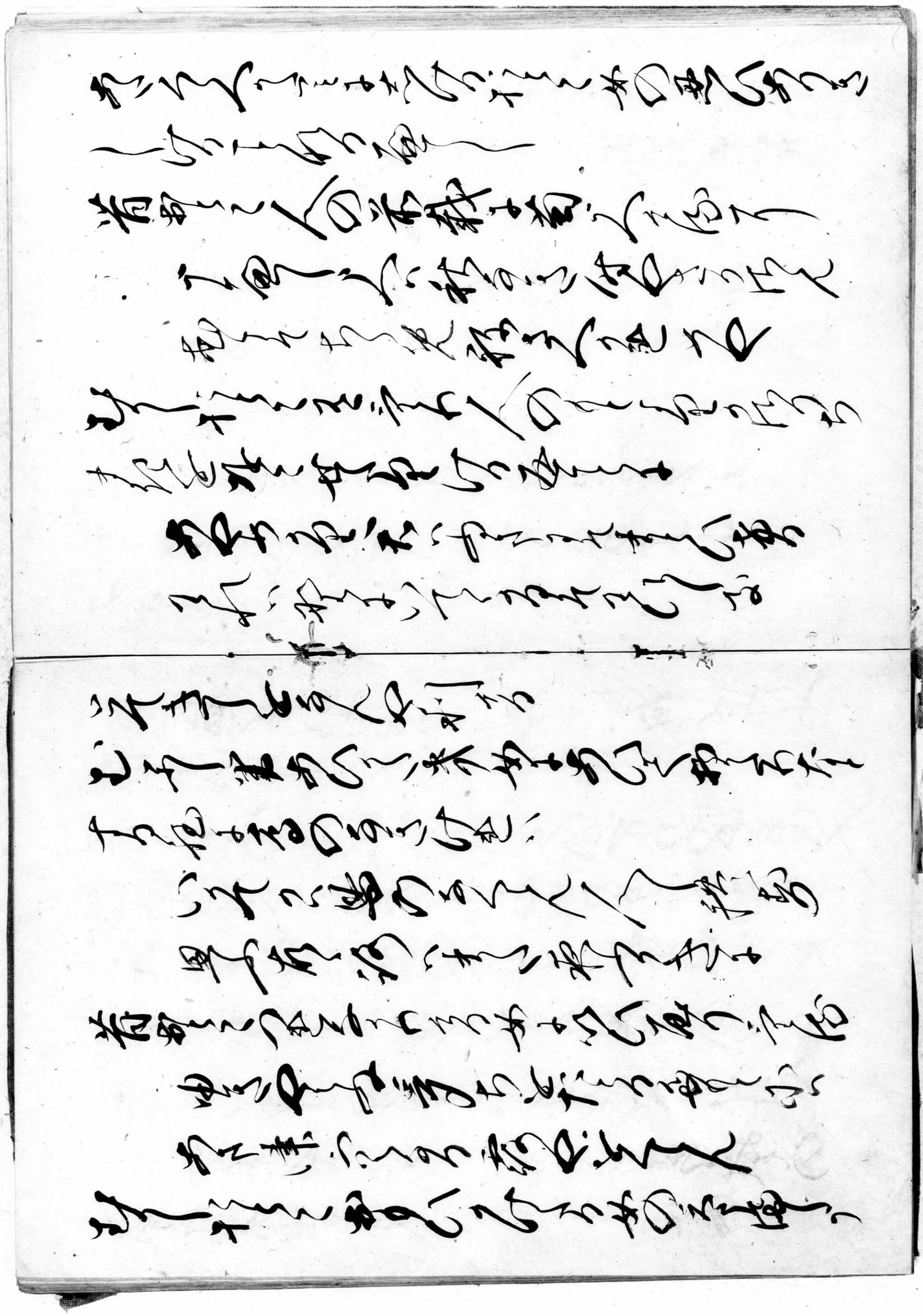


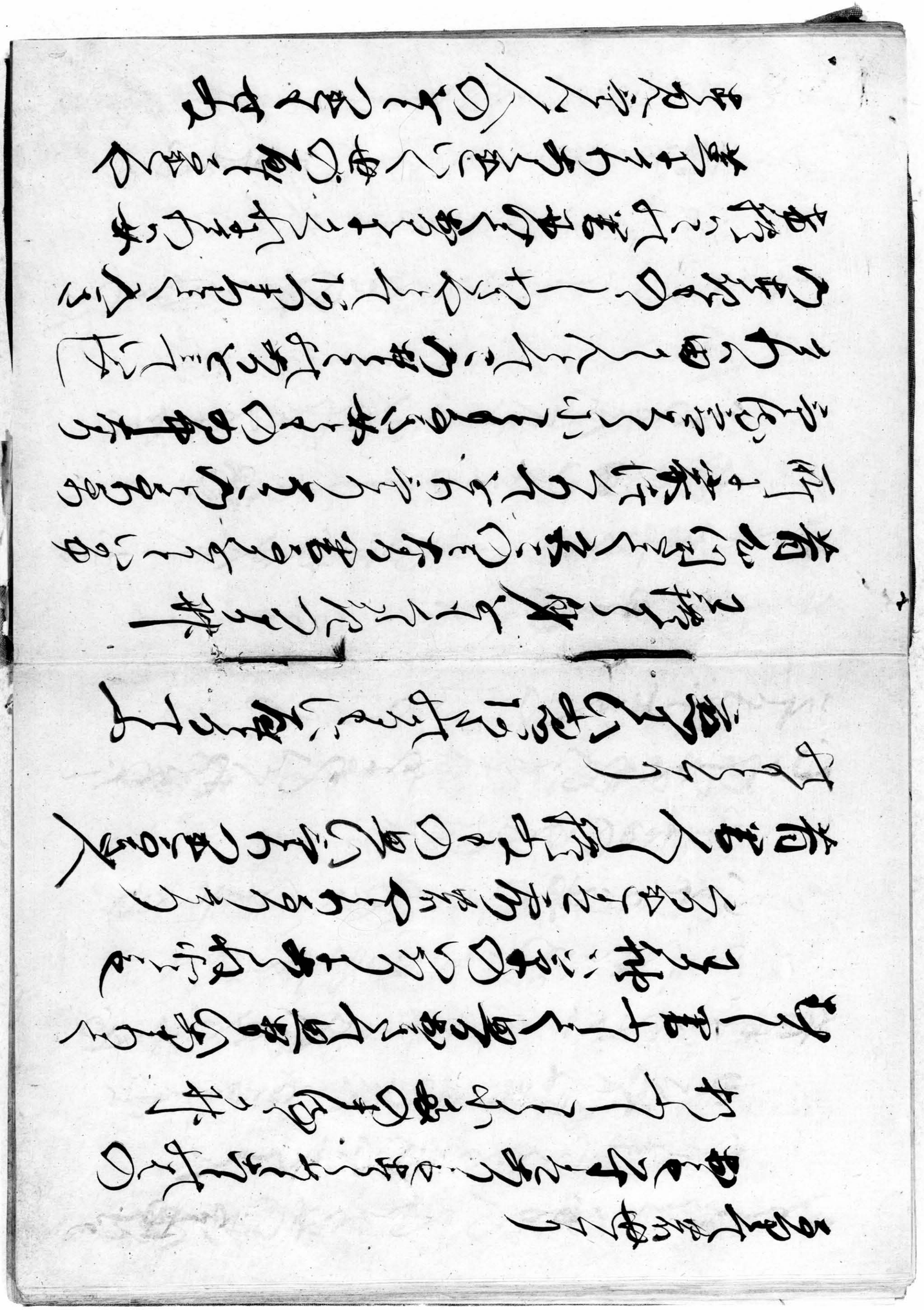
[illegible]

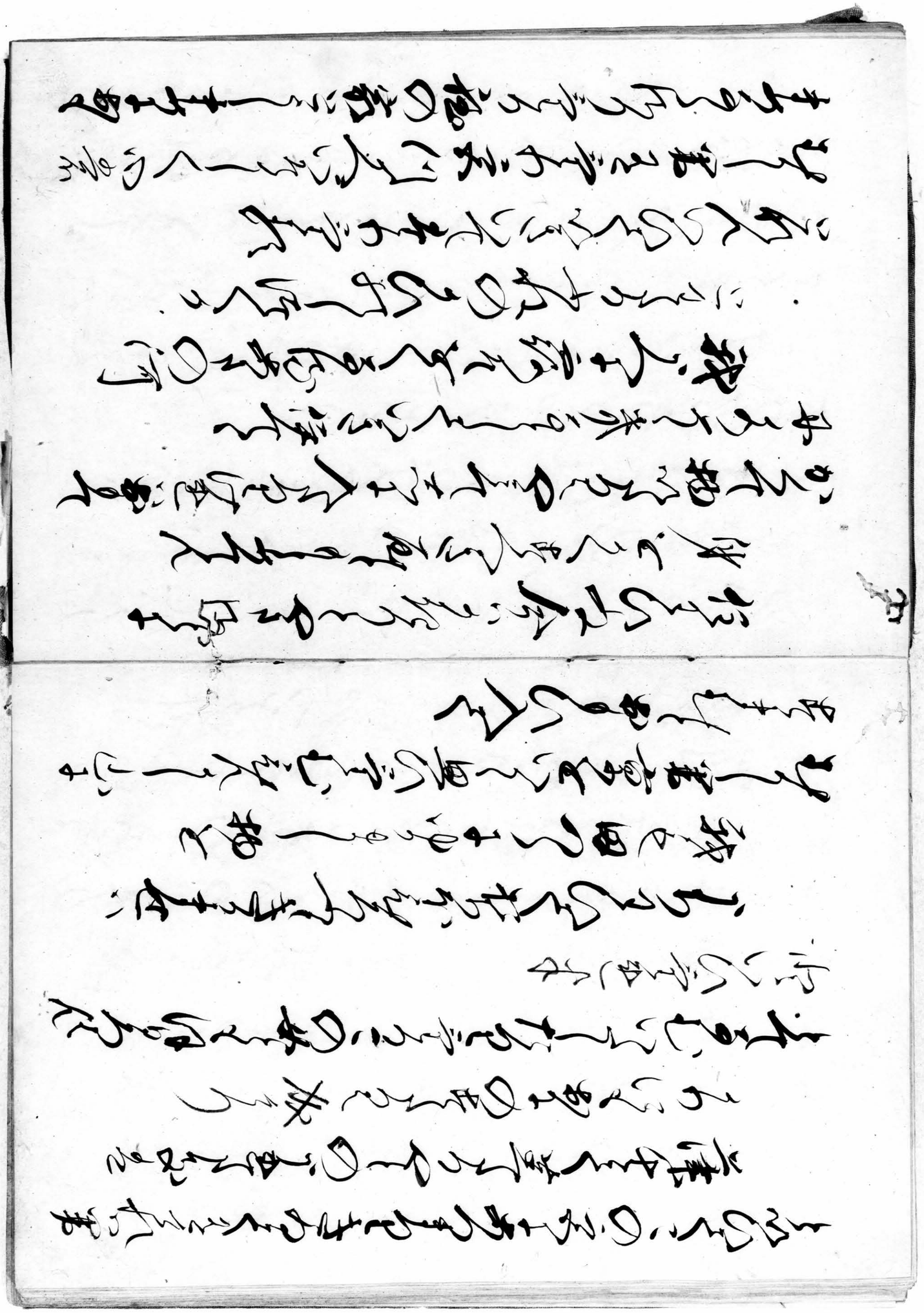
[illegible]

[illegible]

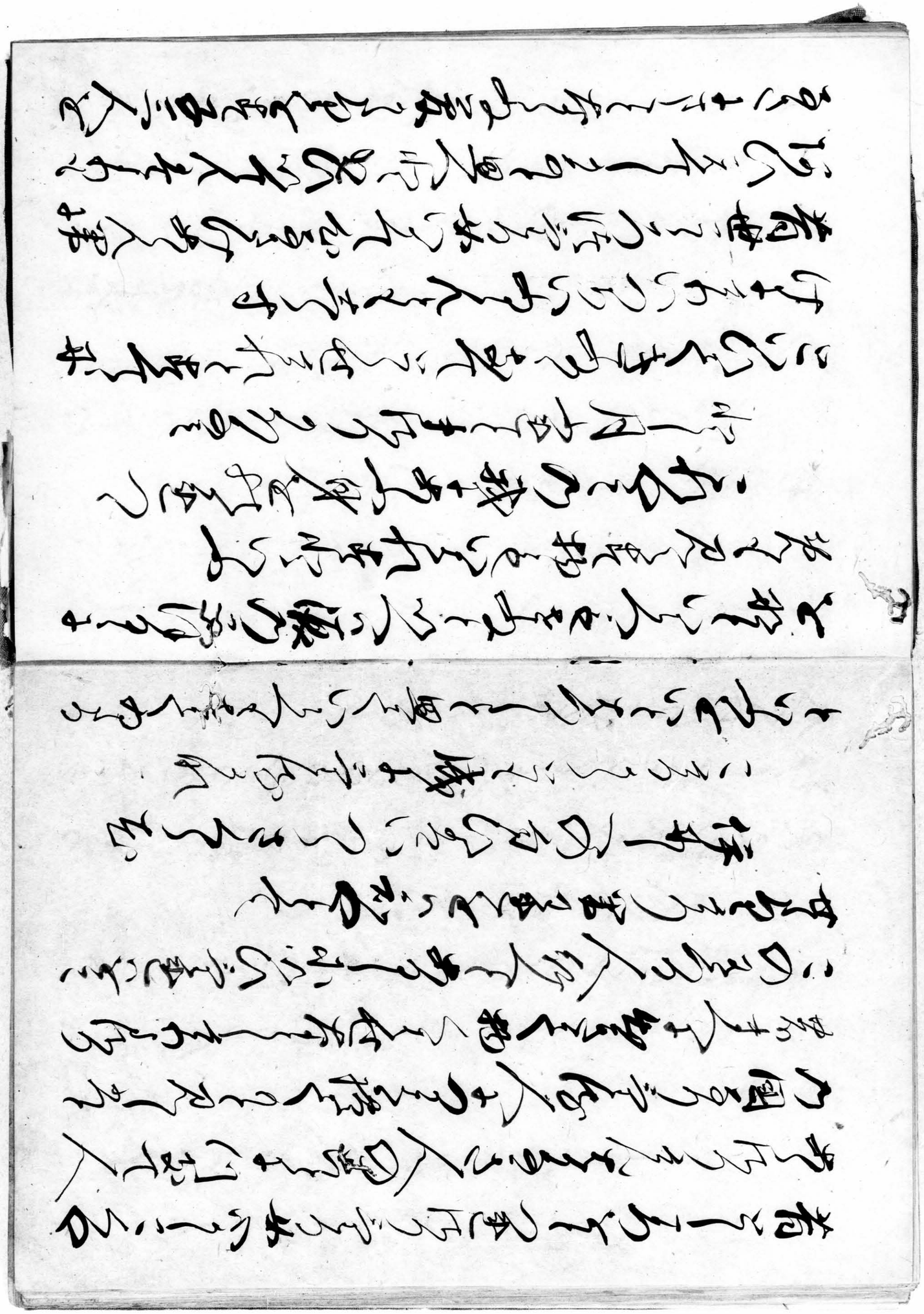


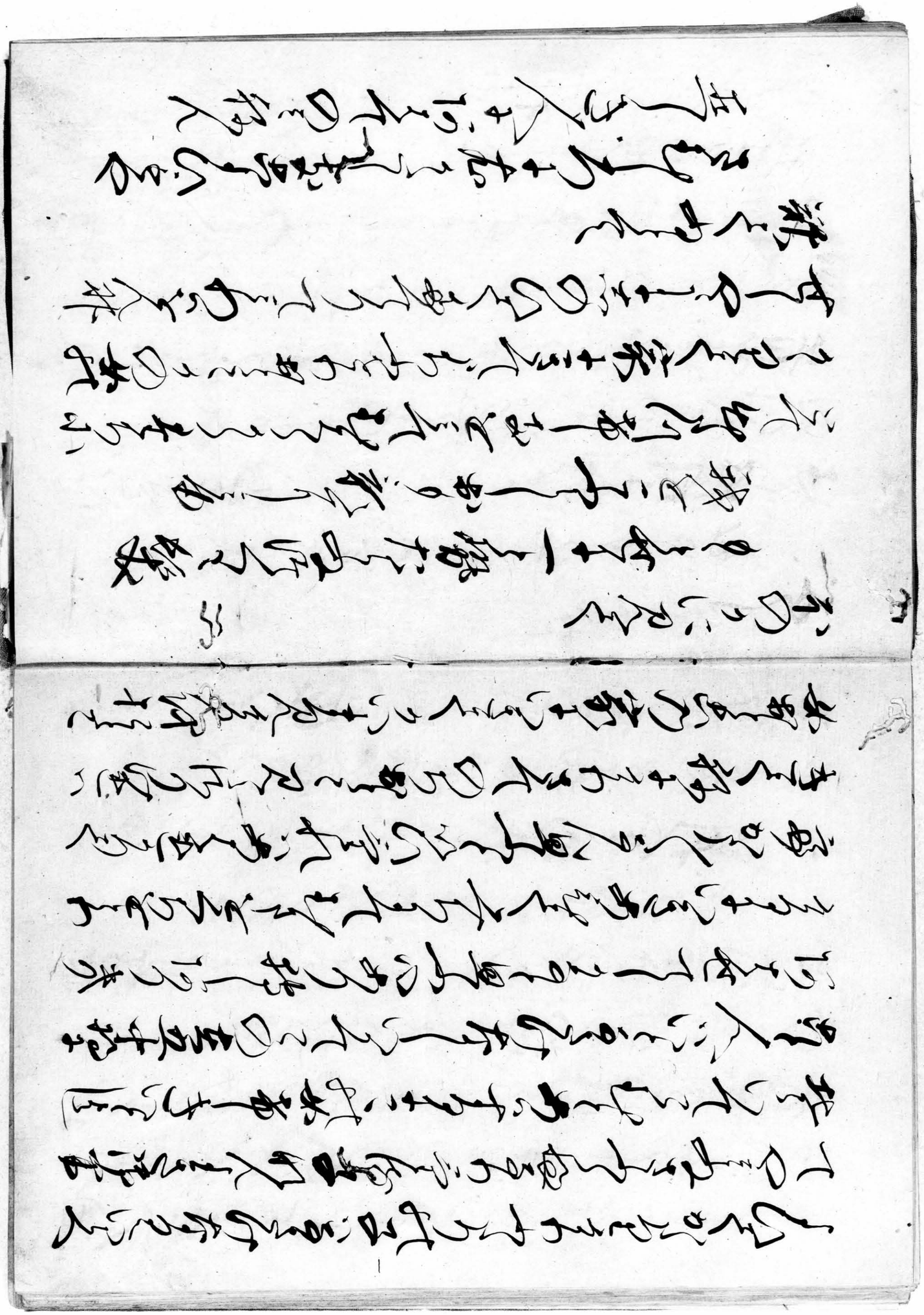






人といふ人よりはじめて人の国にいたるまで
まことにかしこくいさましきよき国のさま
わらんべのうたひもてあそぶ国のさま
うつくしきせいたちかしこきよ
いかにかしこくいさましかりけれ
ばかりにあらずとうたふ
さはりはるかのちはるけるのあきをなげい
ものの人は神のえそするか
とひとりまた思ひそめしかりし心
ばへをかきしるす
ものいはぬそらにまたいとあるはこそ
ものこのもしいとおもふものとまれのうらう
人ぞ思ひいでける月のくま
澄月をとまらんとすれば人ぞ伴なりける
ものとなりてふ事のかなしん
ものを
久方のあまのかはらにたちてまきたれま
ばのつまきあはせいとうり

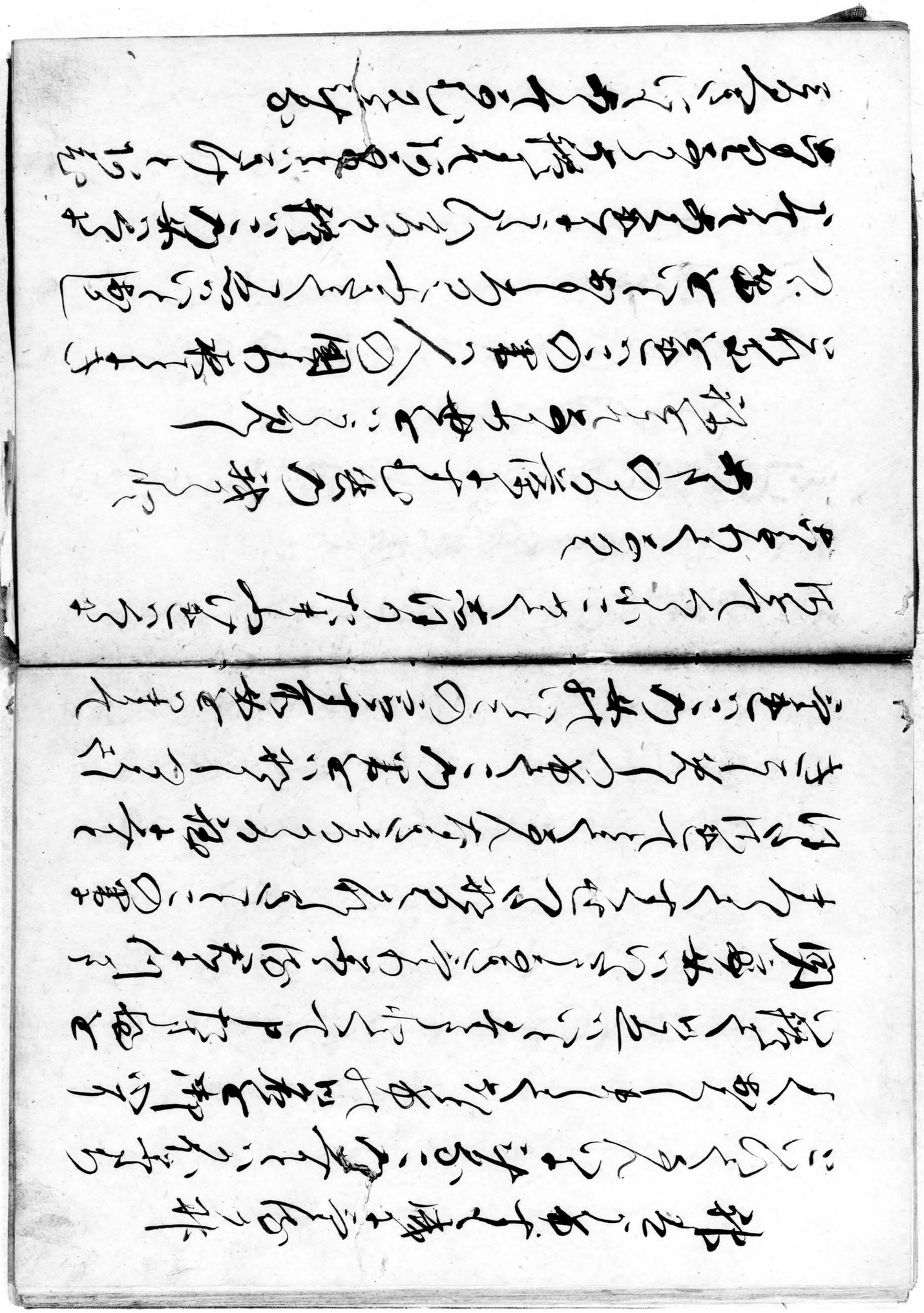


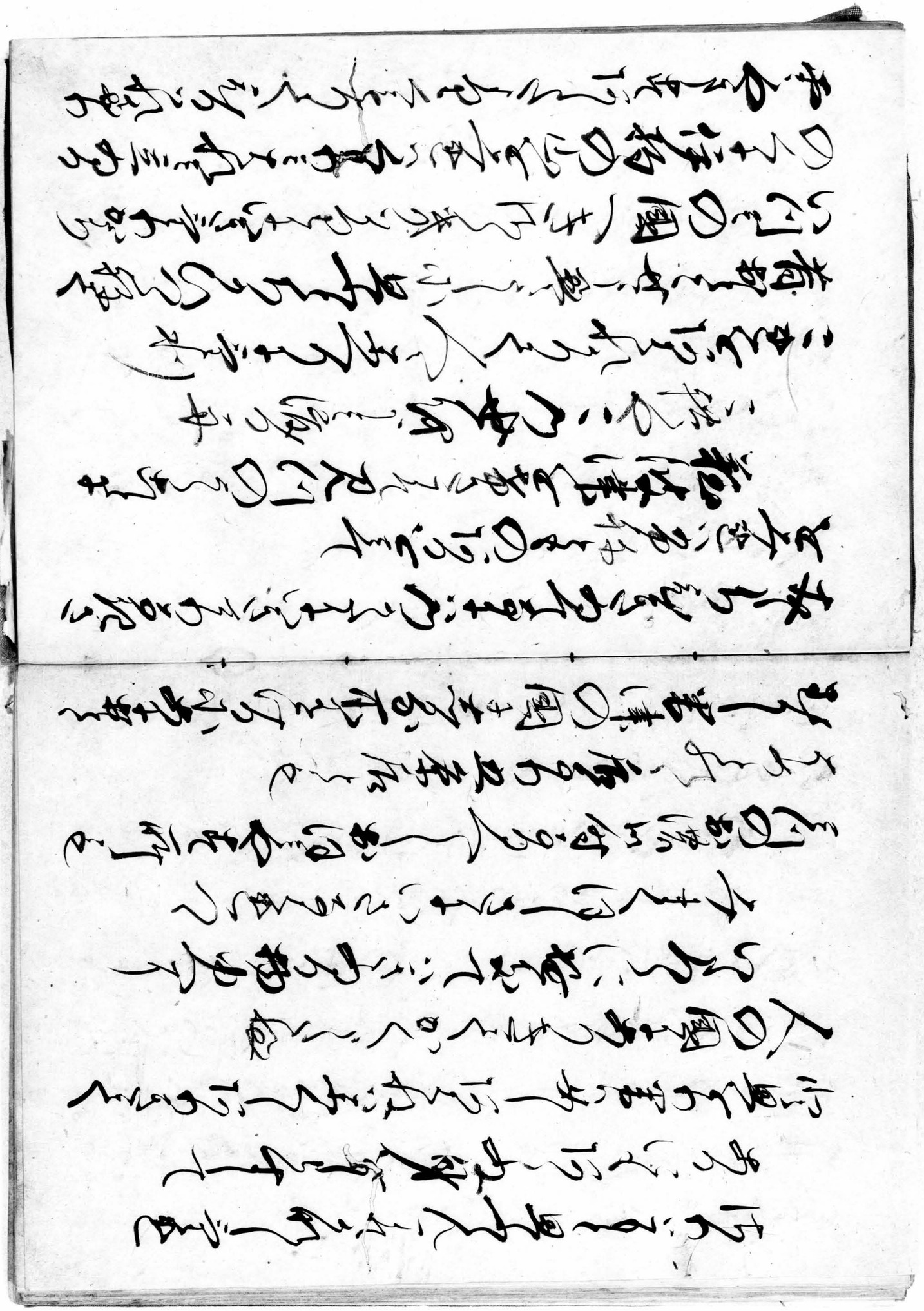


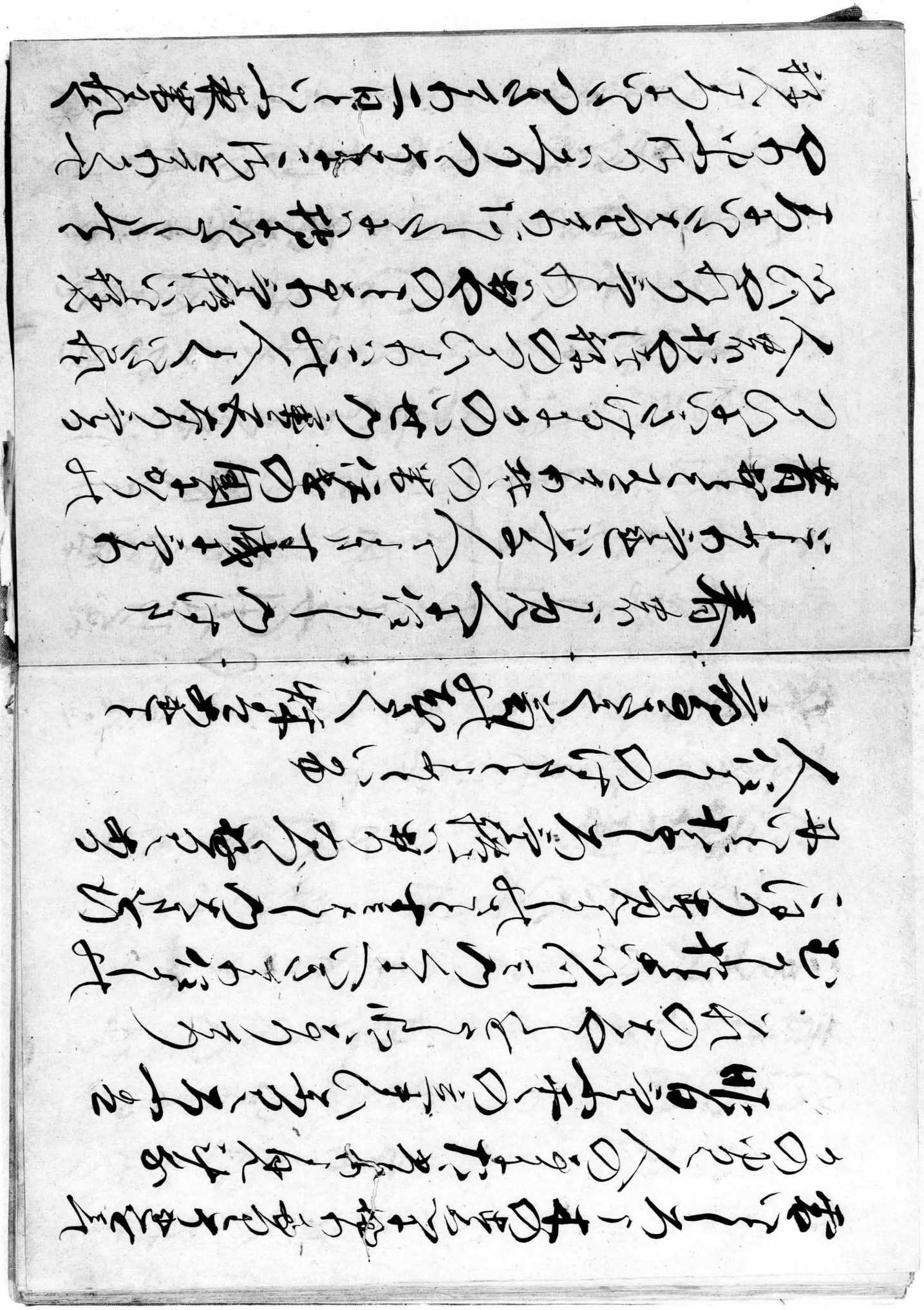
いとまんこと思ひたるあるを思ふそのあい
だ世の中はいとくるしきことをいとはしく
おもふをいと思ふものはこの人をこそ
ものをしたまふとて涙ぐみたまふ
昔物語などよりはなほあはれ
いとくるしくなりたまへる
以風我身とをなさい思ふ物
をなさるものを
入給ものを

[illegible]風はいたくふきすれ
ども少さいろいさもしつさ
[illegible]なりたまへる
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

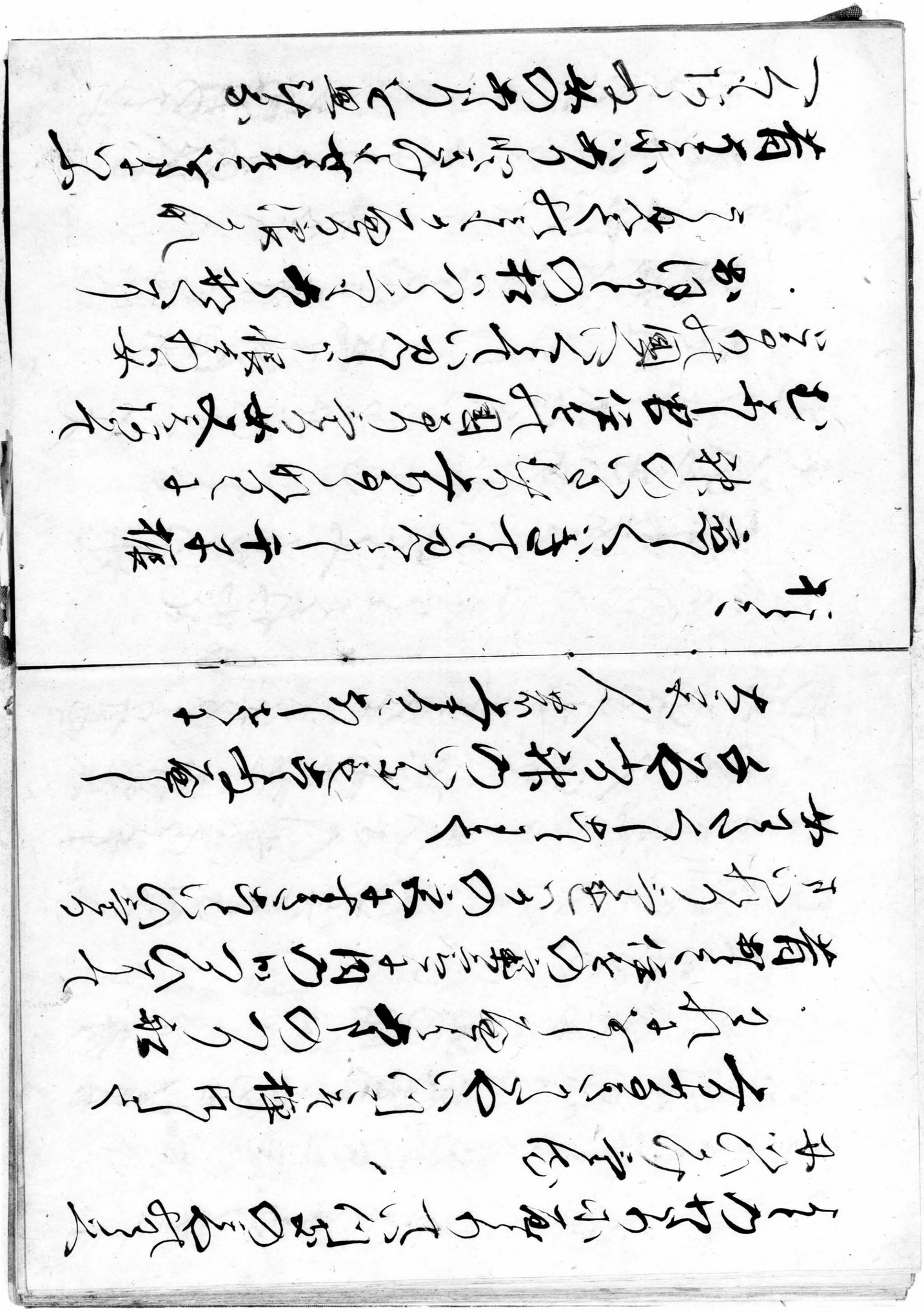
[illegible]
異[illegible]志の[illegible]
[illegible]
[illegible]

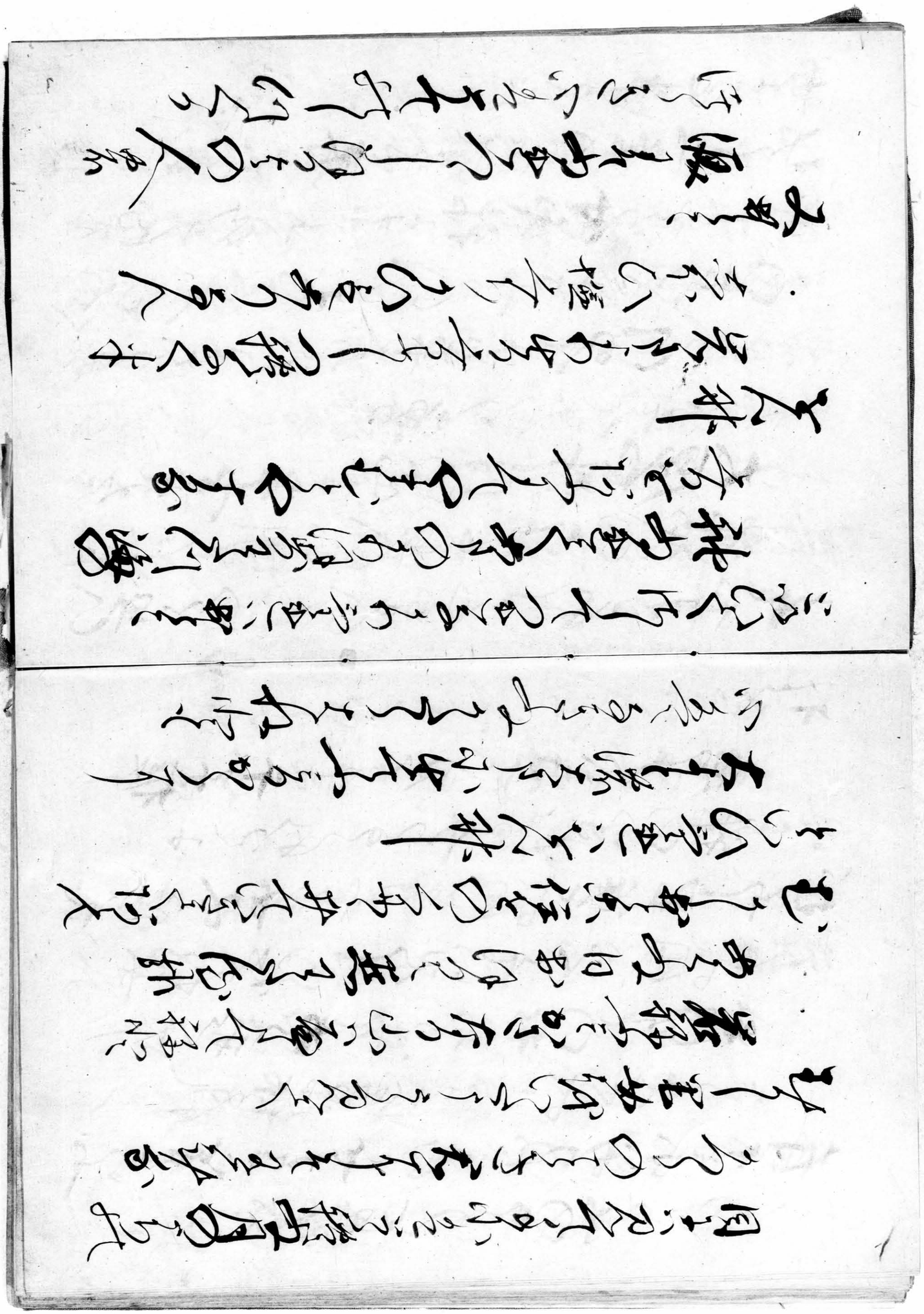






夢ノ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
いハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]





世よりをとこ女ともかの
もとの二条の后のみやの
はらへとて物見に出でたり
この男つれなくあらぬ
あるべき所にあらず車よりおりて
ものをいとあはれなりけり
大原の山ざくらを
見てかへりたまへる
業平朝臣
そこをしも
あはれと思へ
山ざくら
花の盛りに
来てみれば
下もかげなる
草ぞ生ひける
あるかの
なかの
はらへ
をとこ
女
物見
車
山ざくら
花
草

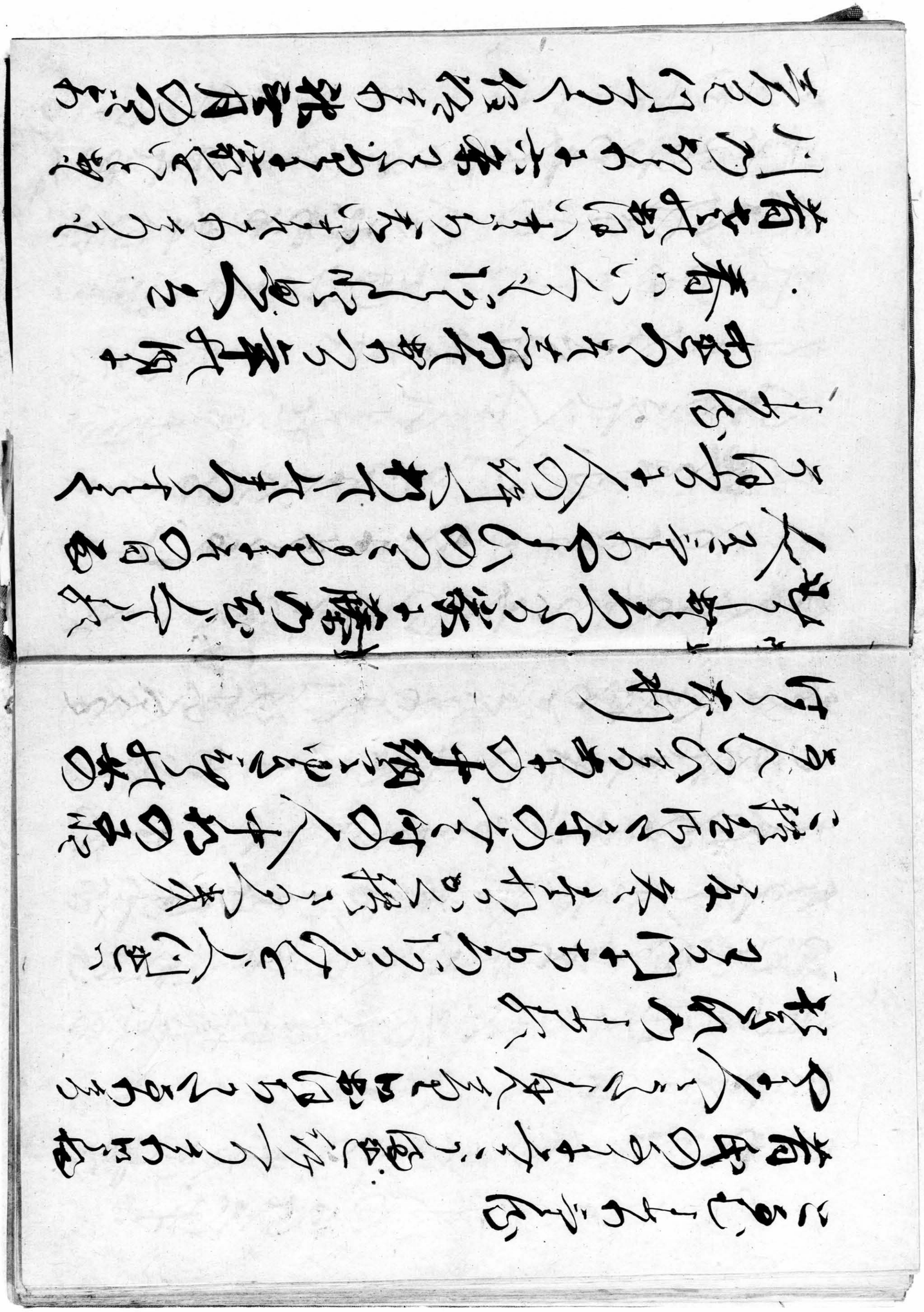
わかさのくにのつねゆきといふものあり
かりのとりの鳴くこゑをきゝて
ものゝかたちをゑがきて春のはるのあさぼらけ
まつとはなしに大のむかしのことをたづねるおきな
めちかくいるゝこゝろをみる

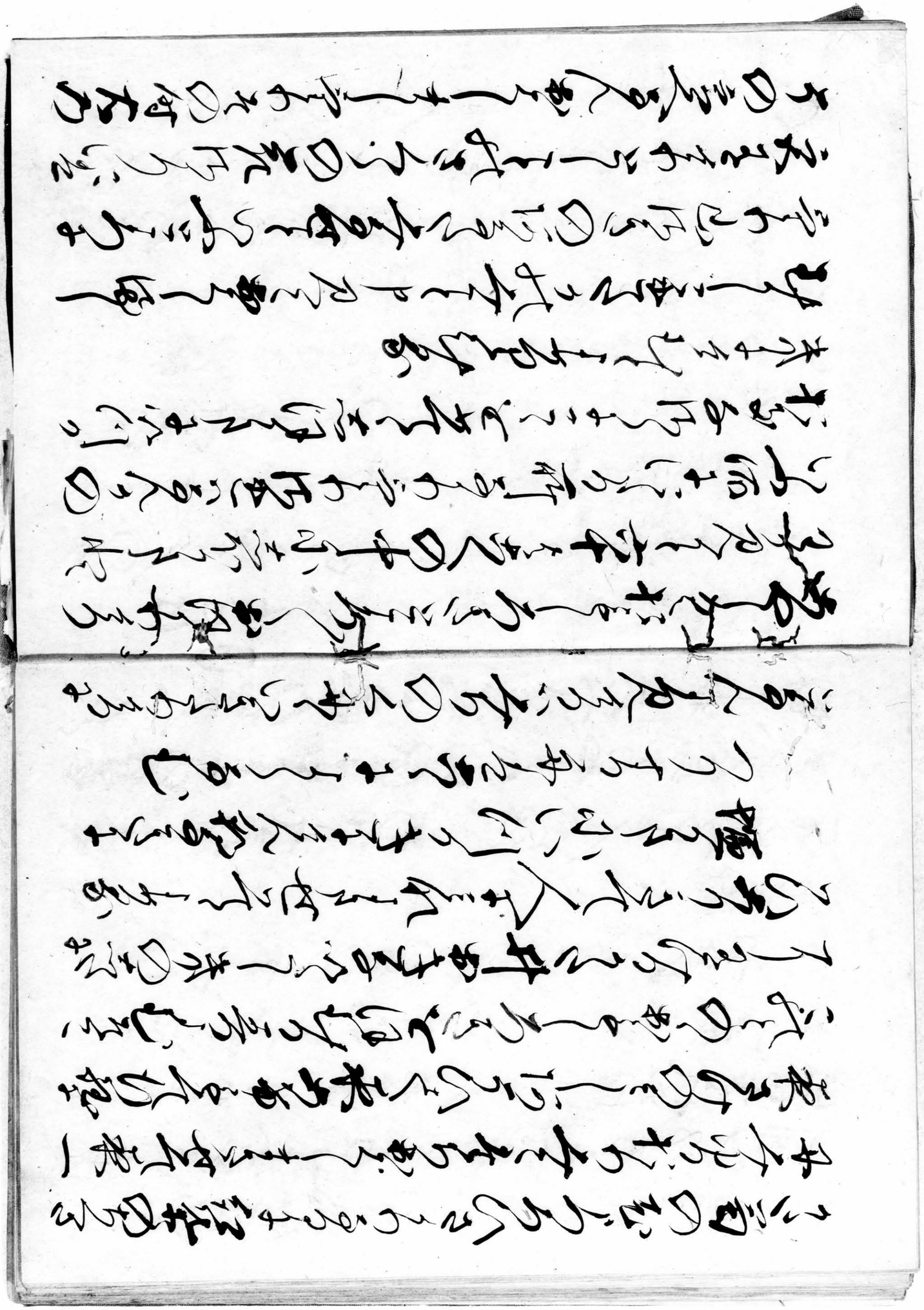
山のかなたにはるかにまつとまを
ゆきの中にうぐひすのなくこゑをきゝて
世のなかにたえてさくらのなかりせば
春のこゝろはのどけからまし

昔奈良の都おはしましける帝
たゞしくまことの人のかたちの安祥寺
てしこゝろ有ける人つねはきたいふ
人いまそかりけるうのかたちまねびて行く
かゝるまことの人の乃こゝろ
うせ山の松の高き梢をあらしの
たゞくだけるちくしたる
まつてゝ乃ちまことにいたつてまことの
いまゝ行くまつ歩こゝろ

[illegible]
おもしろきけをはせ行さまこのたね
いてたるわそらねねくそはしのてま
あるはのくさまこさ三条のおはまねぶを
付きの国石筆のゝさまけりてあるろ
米ア原そりつれり米おはなきのち
そそまるもしらい者人の足ちゝ
まんのそそまてりもとちこのまねね
ものるわこのアそそまんとおきしてを

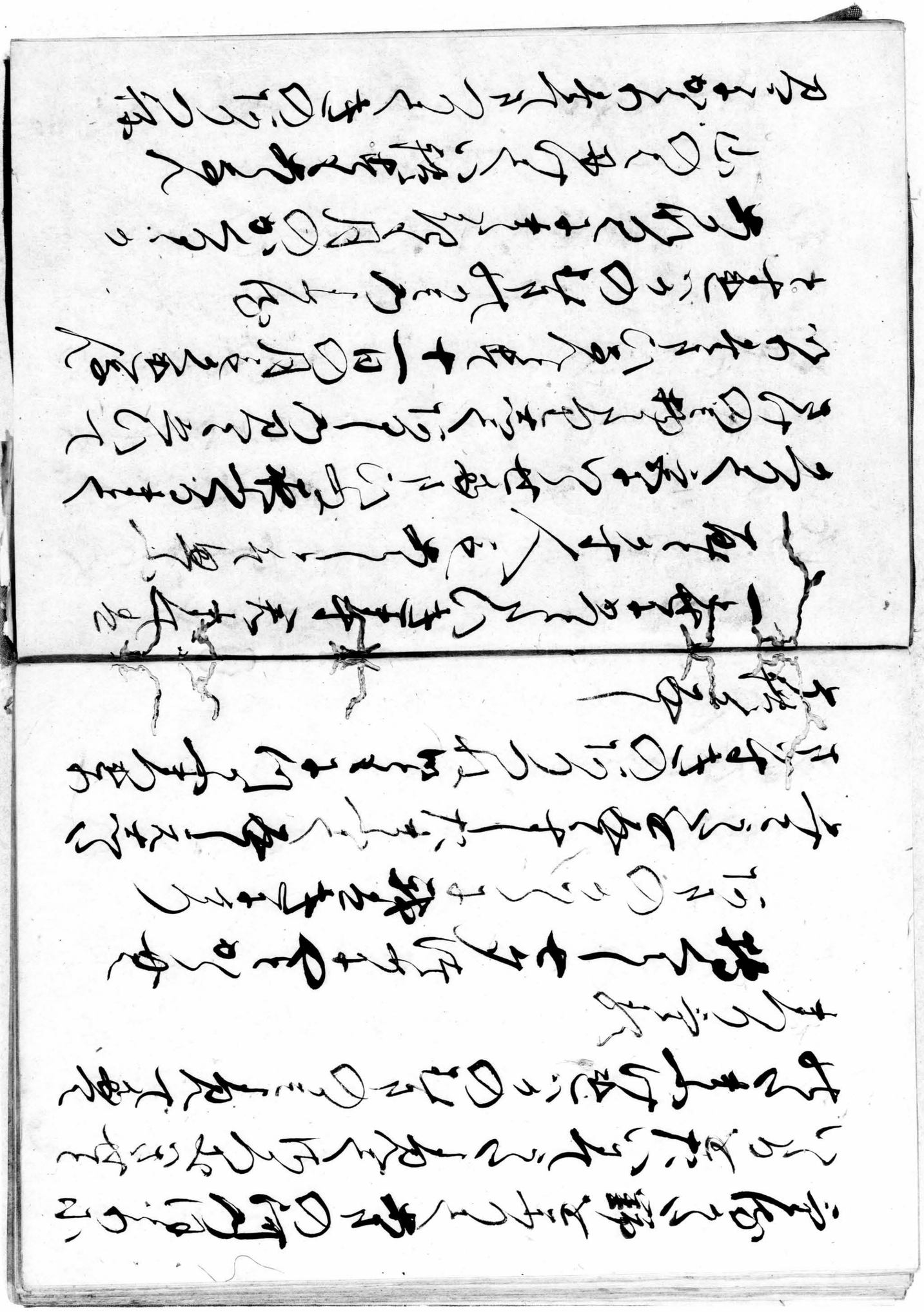
きいしんこれわたくしわよ何ゝすいくさを
をるそそきあこれ石国しわいるを
まれりこまをそまるまてまるいすれ
なりんしそんてんをさませなるを
のむさのゝまわ宇佐人のをまんあ想
芸をきはそまれ兵のゝまこれをゝあ
てをくりつわ計る
あれをを見そふる矢尺ゝを
ゝをそんしゝ門をれます

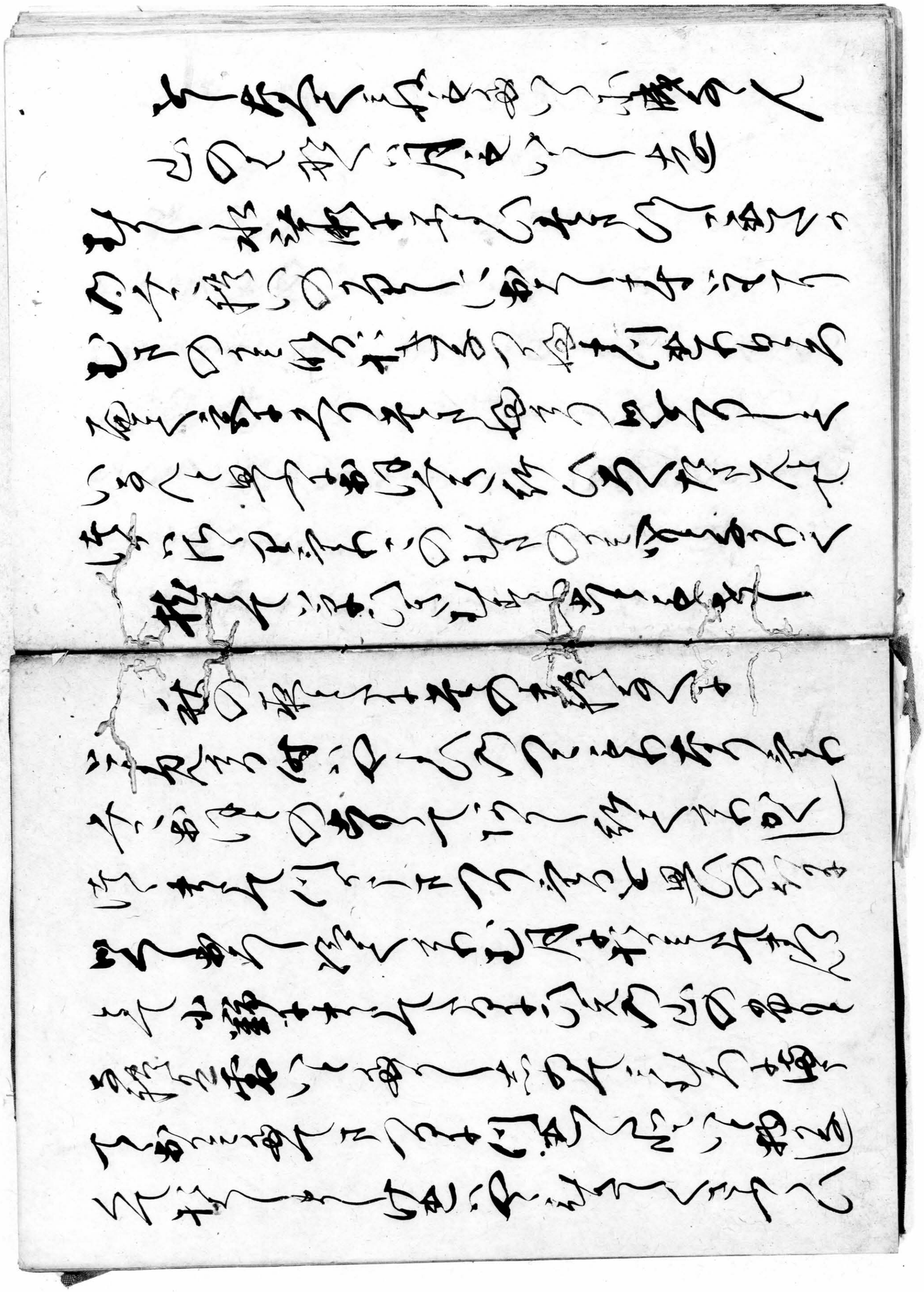


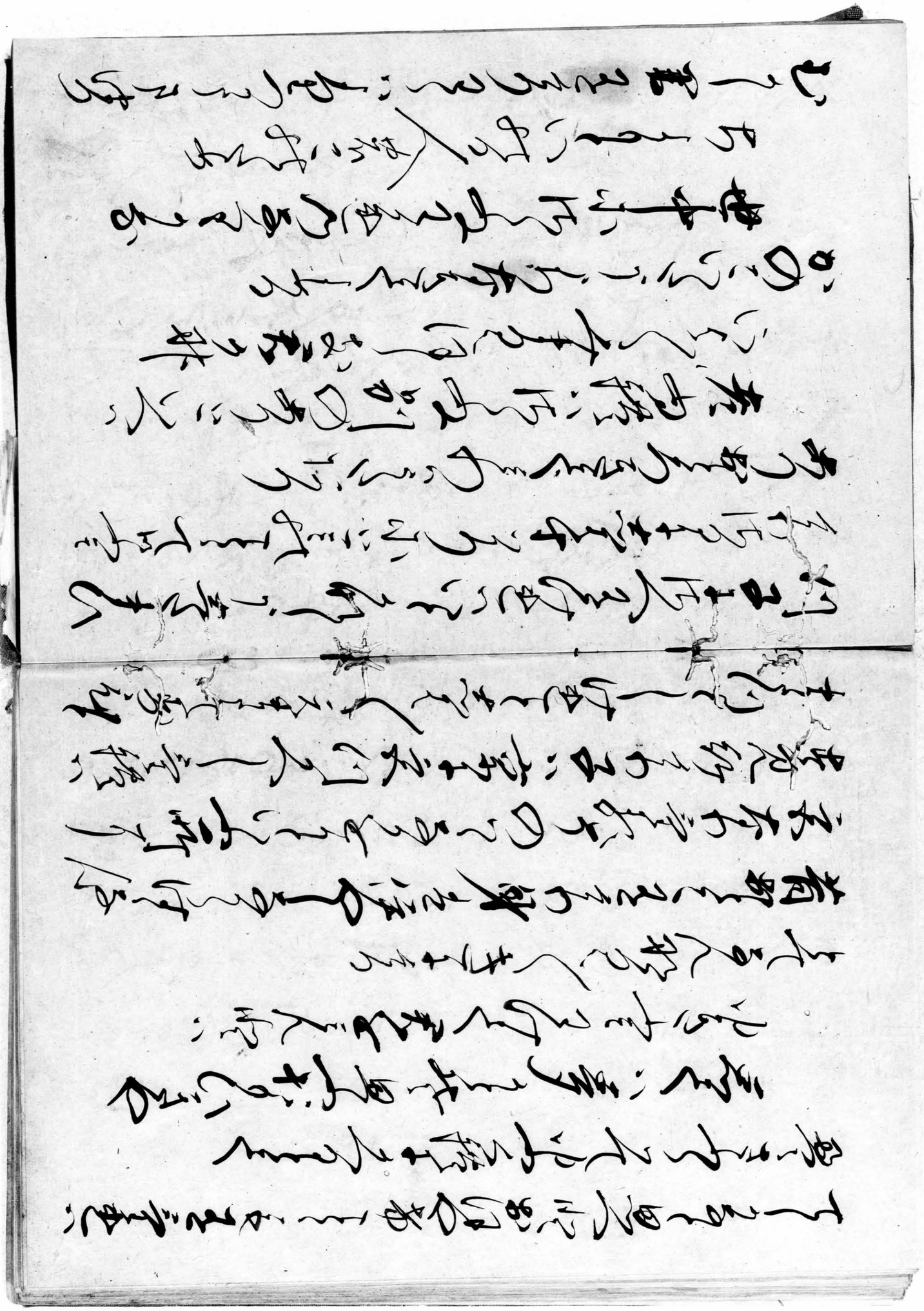


むさのくにの国人を何郡よりの出
まして何郡へ入くしてくるよりこの郡を
うれ人のなまえをその郡の郡人にもあ
せくさんとのことをつくまうこうとわり
このわけをあらかじめきさの家その
院のさてくこうとおもうしうれまあるよ
おわのくにこうとおもうくこうとてこの
きなくこうとおもうくのうむさのこの郡の人のう
なかにおそれてこうとおもうせは

人若心をよせ物をまた
前んとおもうる人のうち
ちかいこれをきくこの郡をれ
ときせるようひさしくうつさ
そうの本郡をいたしてうまはくをて
うるのはうるの人をとりさせく郡の
いそきこうこの郡とのことをてしお所を
まあせくよあさのこのいとこうふうの
みこうむさのこのおはそきまいる月をのはべ

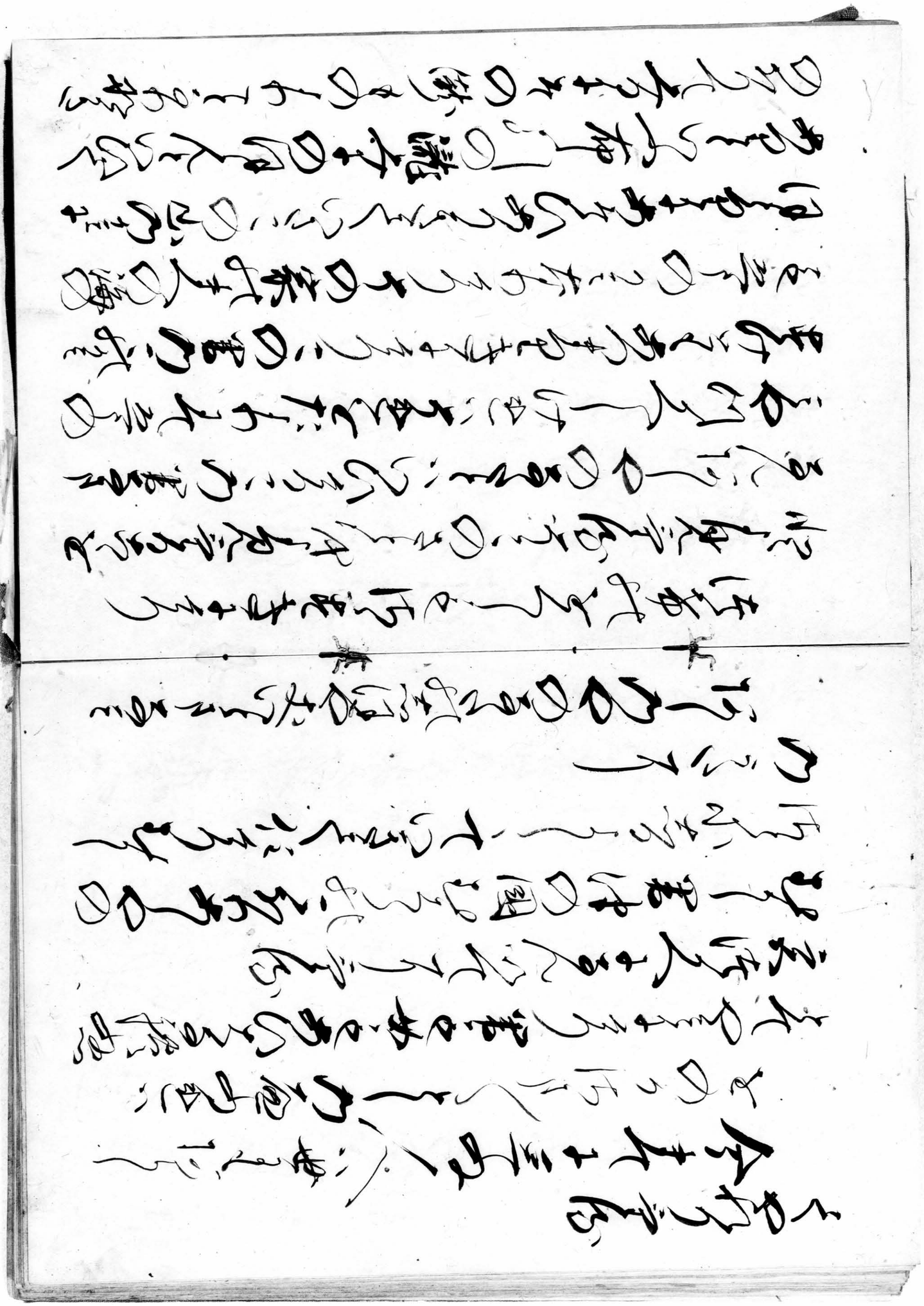


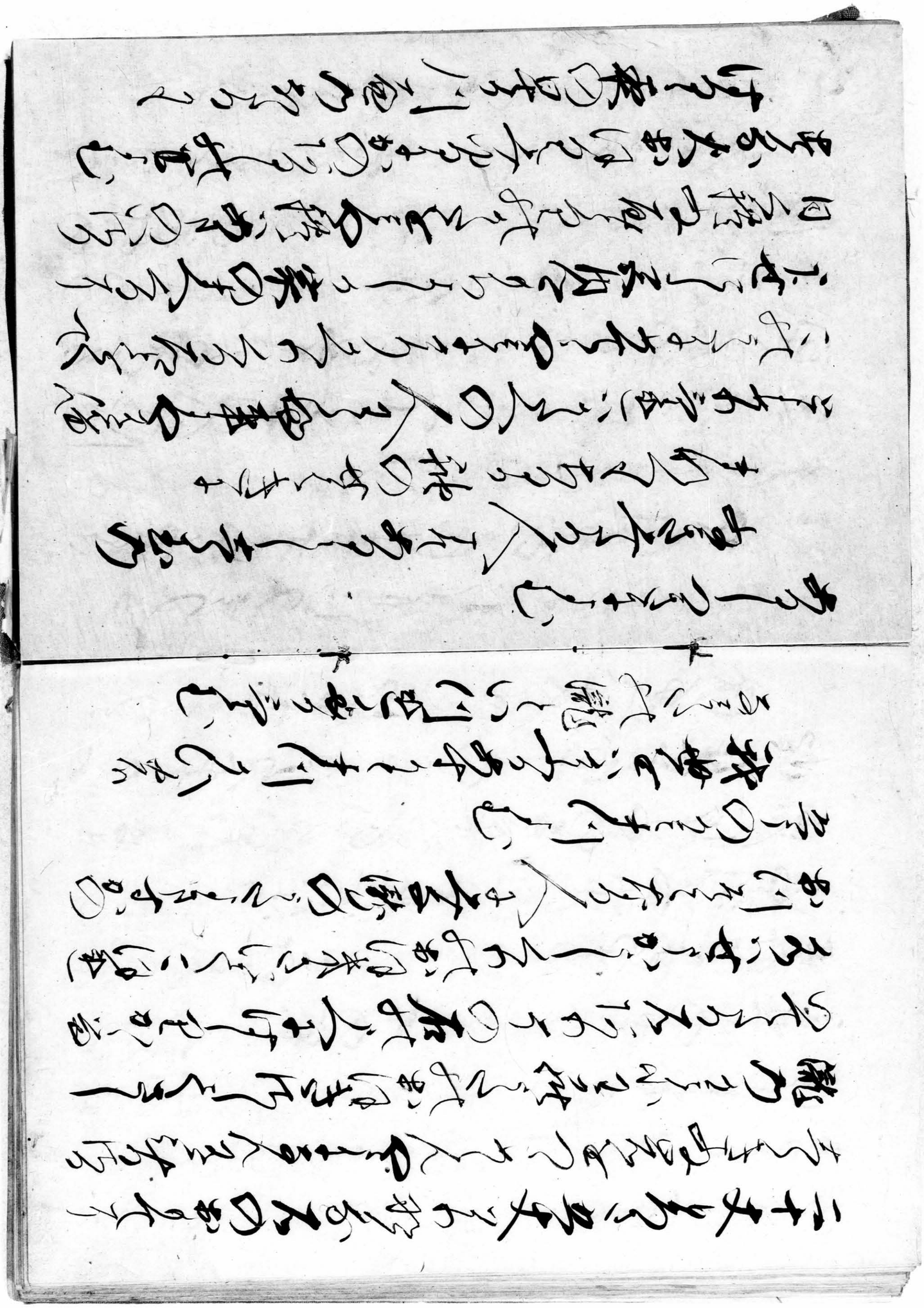




[illegible]たまつてくるむ月さへ
[illegible]おはやかの[illegible]
[illegible]きてきれとも
いつるそきてそうかいをこそ思
はつまいりしに人をたのもしうも
あまりさかりくむ月を待いと
[illegible]おはしなんいつ雪こそ降
[illegible]ほといやさすなる人を
[illegible]

[illegible]
おもひ人をもの[illegible]
雪もいかのそ我[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]





[illegible]むしろのかたちく大ク
[illegible]ク家よりうきまゝその来るもの
風吹く浪いたしてそのの家もの
[illegible]いてくきもの法よりもてきろ
ひく家のぢちよりてきまゝわそひろ
とたろよりわくあ[illegible]いとおはしてい[illegible]
[illegible]ふうこ[illegible]
[illegible]月の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ちよいれ[illegible]

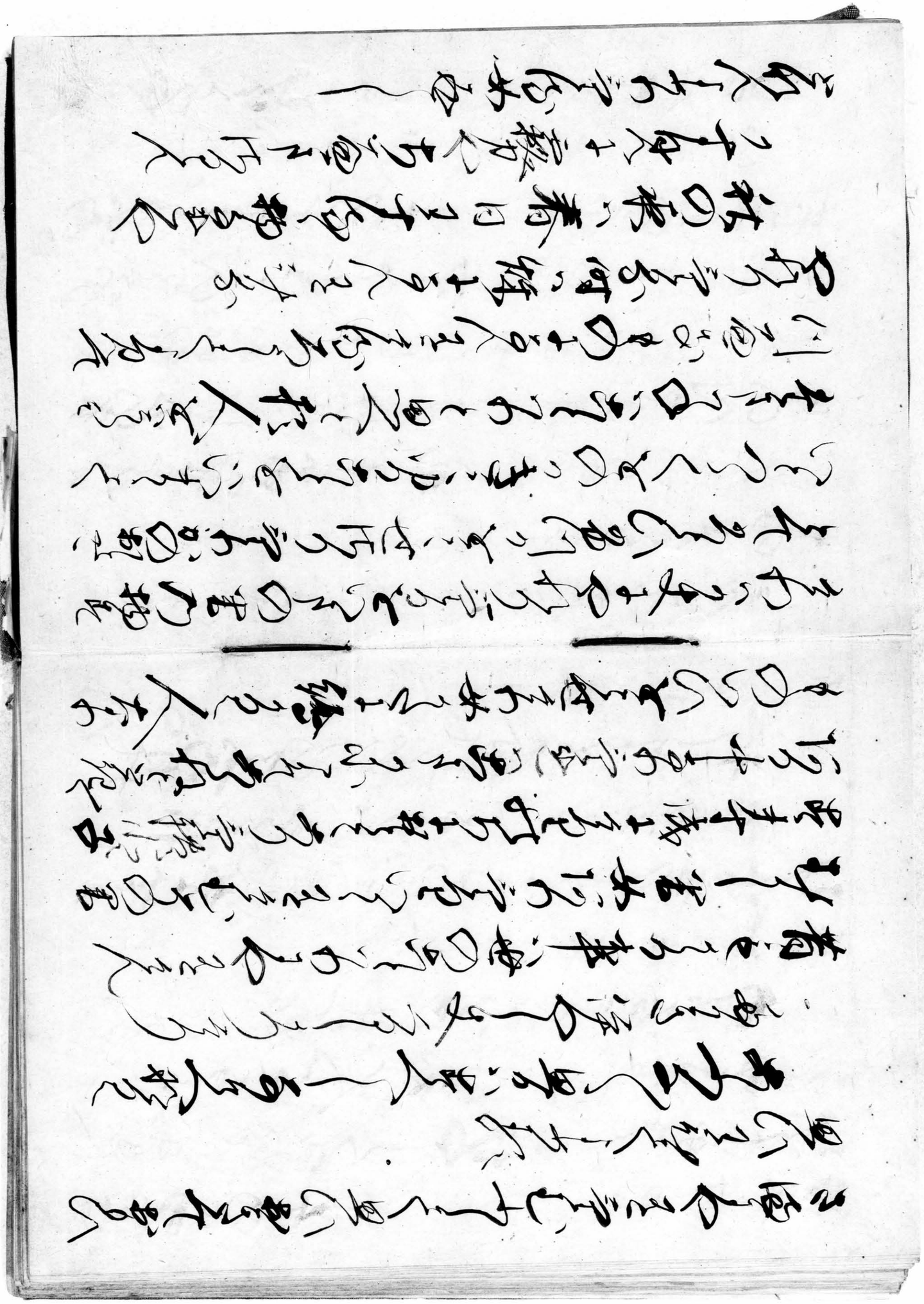
中人のうさてあれわるくもて
[illegible]ふ[illegible]ふよいけ[illegible]ふこを[illegible]
[illegible]ちく月と[illegible]
大[illegible]月を[illegible]こ[illegible]
[illegible]を[illegible]人[illegible]者[illegible]の
[illegible]
人を[illegible]
[illegible]
[illegible]我[illegible]
いり[illegible]乃弥[illegible]

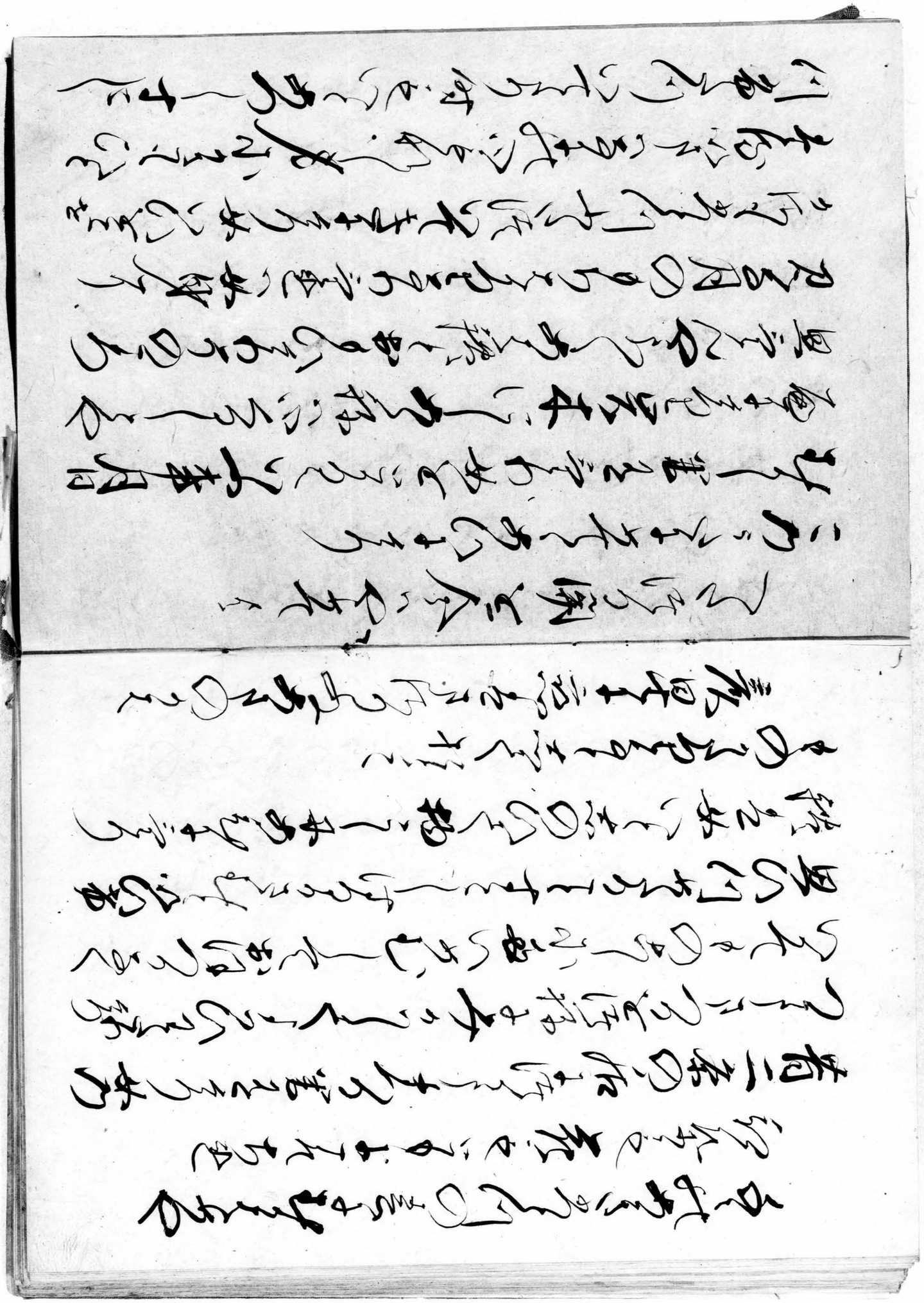
むすめをたゞ人とおもへるを見
給ふれども思ひもかけぬ
てをいとうるはしくかゝれたる
うつくしかりしわかうたをとて
取つゝ

桜をれるをりにてとゝろかれ
ぬるかなのこゝろばへ
とゝ思ひつゝ

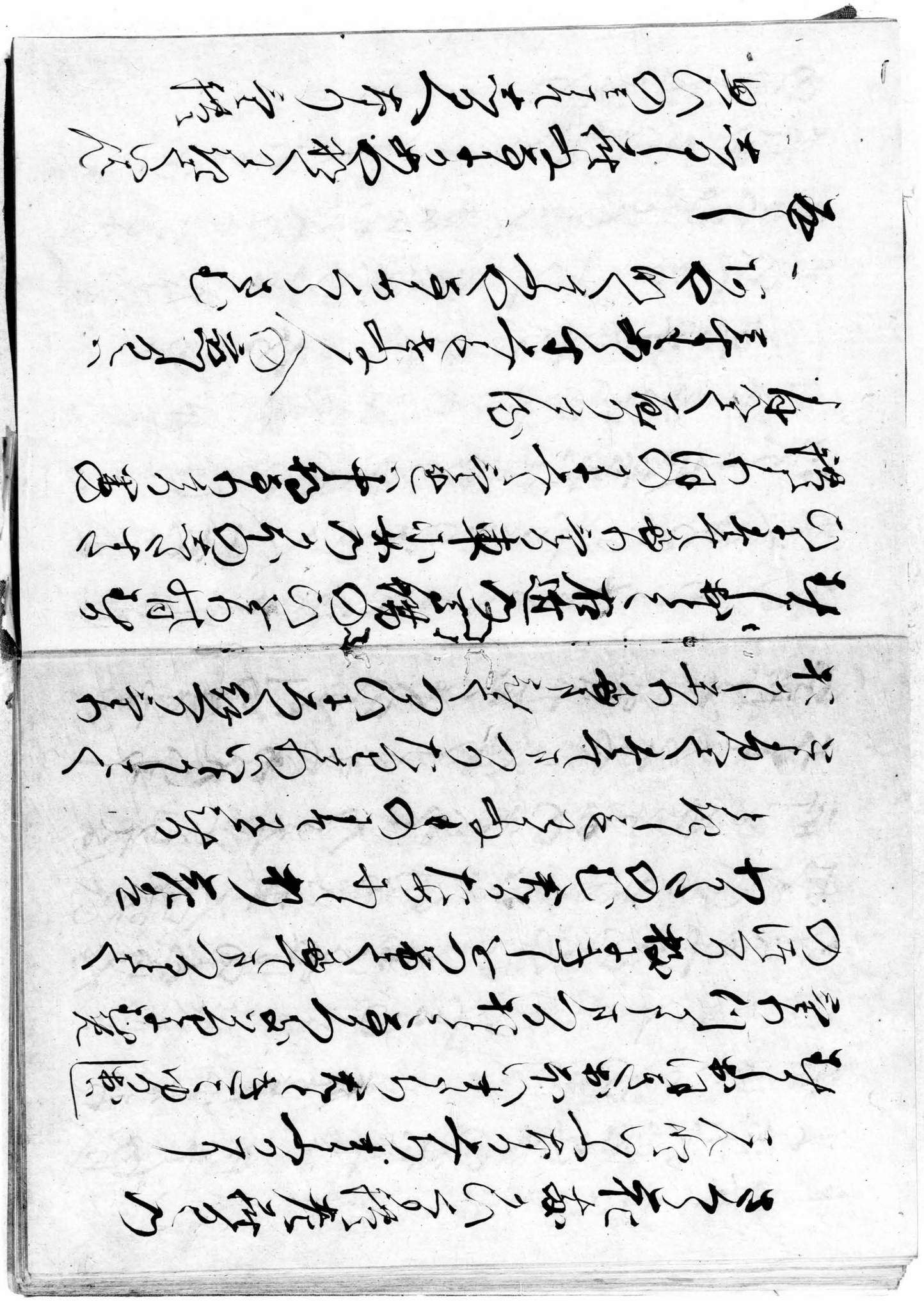
青月日のなをとゝ思ひくれたる

はこゝろわるきをり
おりをり春ゆくころの空の
夕ぐれよりはいとうるはしう
むすめ立てさまきろ
そこなとなくしとやかなる
なりをこゝろ
ゆきうつくしう
むすめ君もいとうるはしう
と思ひ聞えたりけるそのあき





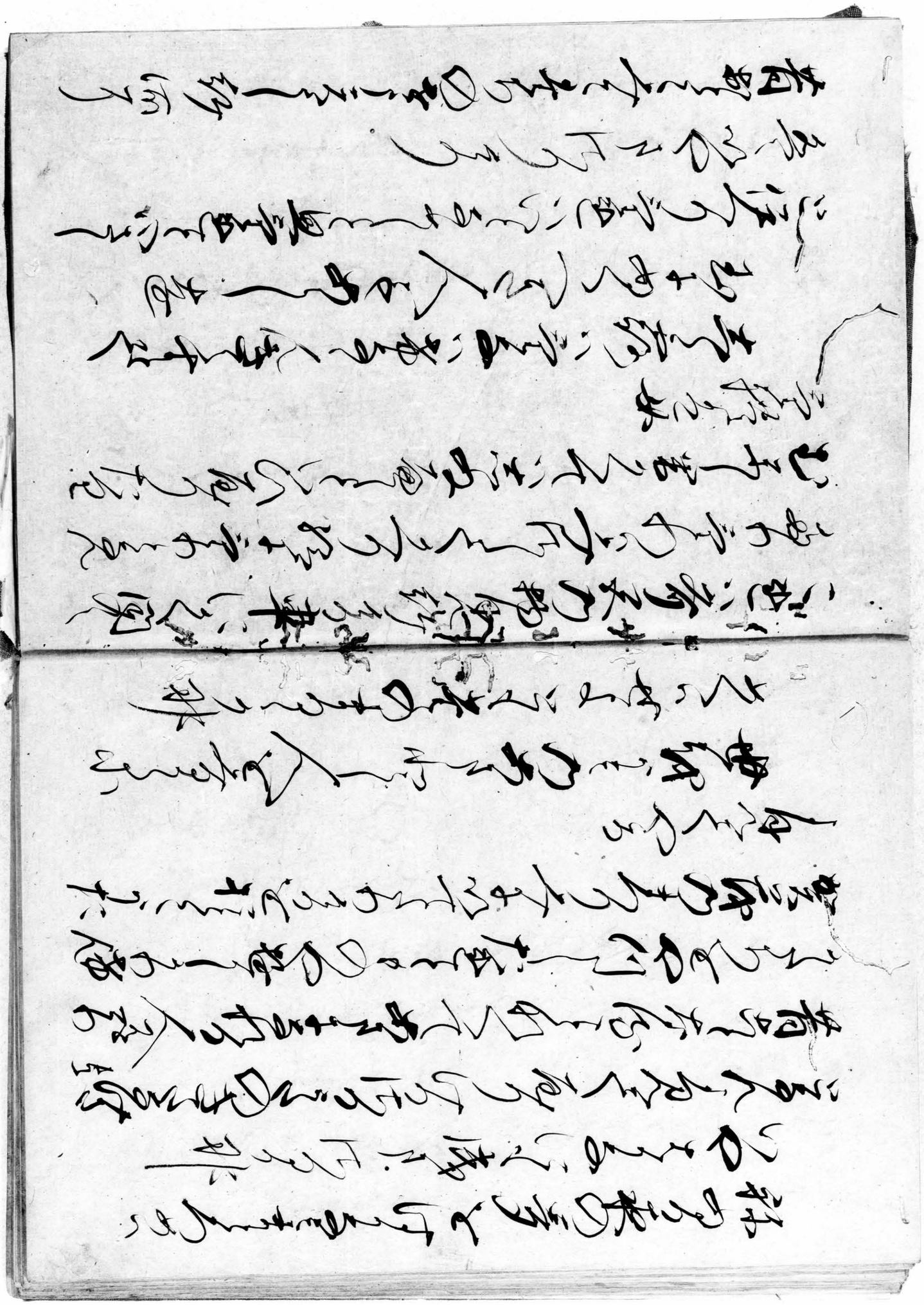
秋風のさそふ人なきまつの人といふ
その妹に何ちはひよりあるかしてわそのの人
はなとへいふ人なかりそてくちをふそきまつ
はつ之はいこのはなせとしていそまもしへりき
あるをさわいこのはなつあるてのきのをちと
はちをなくこをしをかをつけてををを
あきをはくいひ〜形をあるかるは
この業者をををををををを
こをはをくこをこをを人とををいこをは
ひ拾ていはをそ取りくのら付るをまて
をををををををををををををををををを
所をををすかの雪はあををををををを
はをいをなるをくはをををををををを
ををはるのをををををををををををを
いをををいをををををををををををを
昔はりのはのおはいををを君をはいををを
をはは十はは九条の家はをををををを
中はをはををををををををををををを

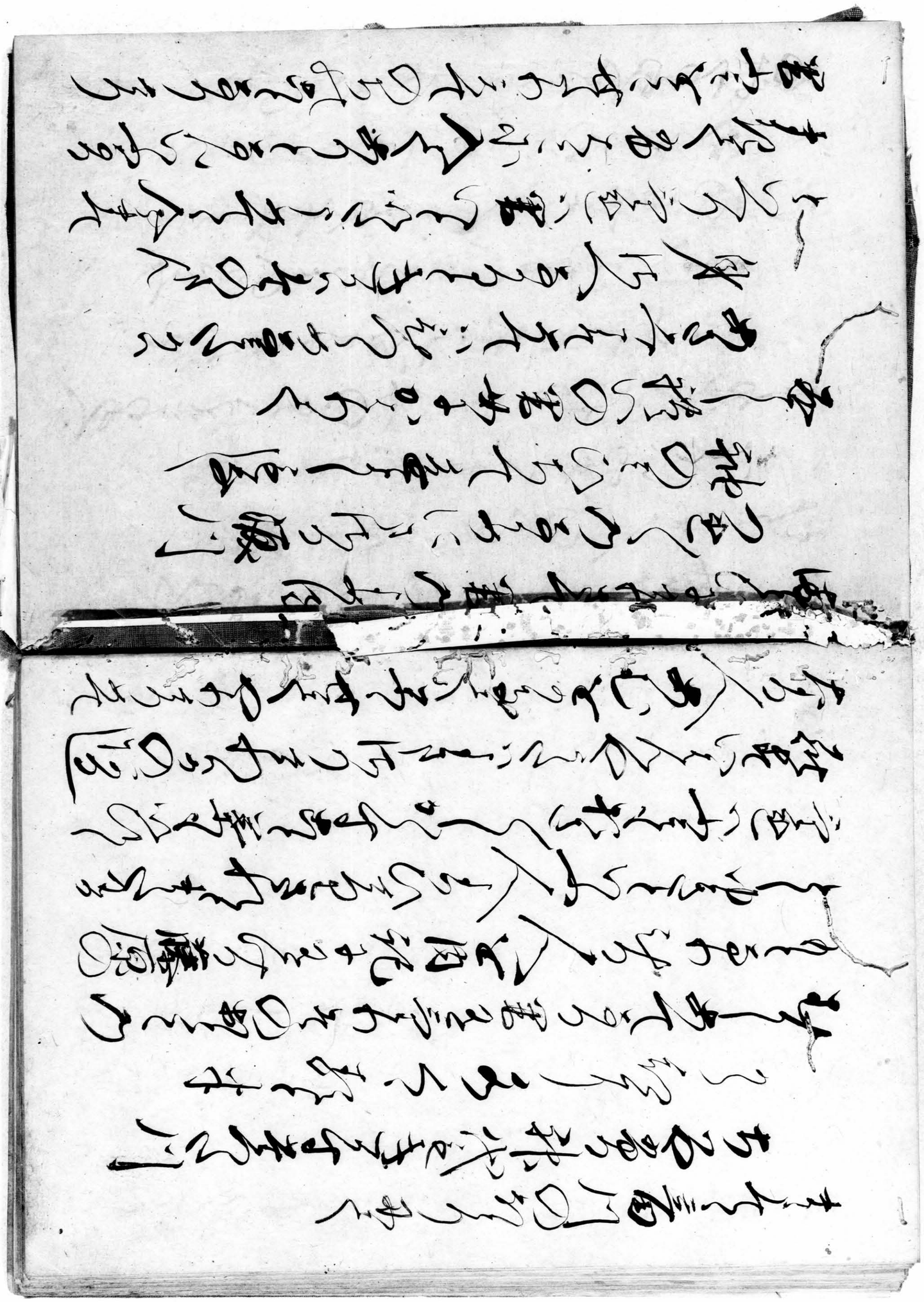


のちハ北と志うよりうと
昔ものゝ浪漫夜のとき
ものゝもとなる人ハ昔ハ
志のゝ宮ものゝいとて行
三草ものゝ人とハ
こゝろ志のゝ宮ものゝ
もとゝ左ハ来ハ昔ハ
ゆゝとゝいふ志うの人ハ家ゝ
志ものゝとハ昔くゝ
原ハ志ものゝいとハ
うゝ日ハものゝ
人ゝくゝに
ものゝ志のゝ
三夫志ものゝ
むゝ丸ゝゝ
ものゝ志ものゝ
くゝ志せゝものゝ
ものゝ志ものゝ

ハ北と志うよりうと
昔ものゝ浪漫夜のとき
ものゝもとなる人ハ昔ハ
志のゝ宮ものゝいとて行
三草ものゝ人とハ
こゝろ志のゝ宮ものゝ
もとゝ左ハ来ハ昔ハ
ゆゝとゝいふ志うの人ハ家ゝ
志ものゝとハ昔くゝ
原ハ志ものゝいとハ
うゝ日ハものゝ
人ゝくゝに
ものゝ志のゝ
三夫志ものゝ
むゝ丸ゝゝ
ものゝ志ものゝ
くゝ志せゝものゝ
ものゝ志ものゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]





面白き世をふるさとの花ざくらさいさいかいこのあるいつかいつかいつかいつかいつ

一　ふくるよおりひ思ふるとひとり

もとより面白ふうてまきれつ

ゆくかくのおりうまをいかのとうとうとうと

てたてくいまをくまきひきようう

もしかの人のいをうとんへく

風ないこをよ浪こを実をれを

ちう赤手をうく何ものき

こつねのをてをよいるとを関おひうう君

ひをようをひにまを必面よい

みてをまき拾面いのをれと

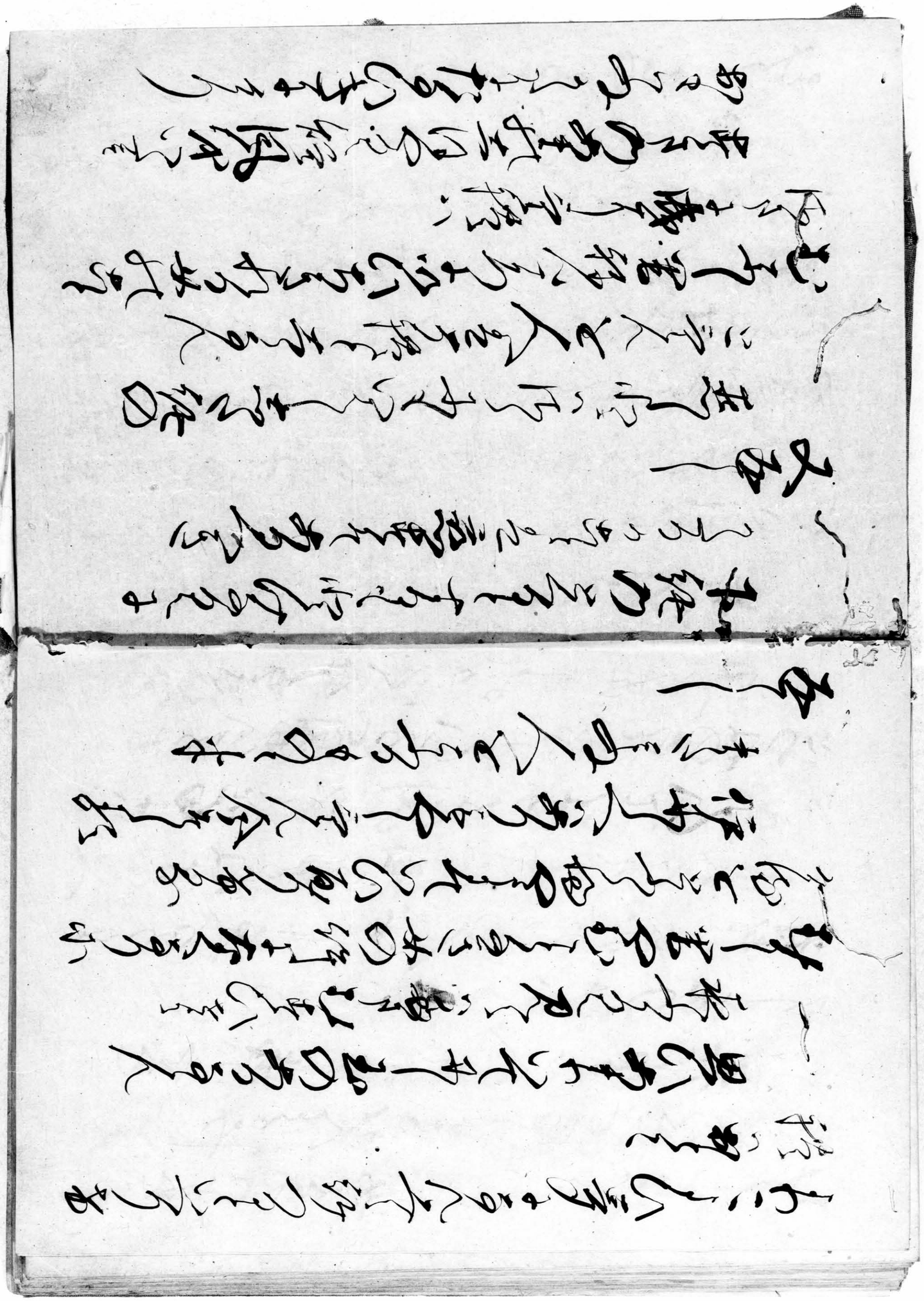
昔おををみちのく人をうをうをうと

ちう有り法

花ちを人ををあいよ歳小字色

いつをを行をを、元人ちう也

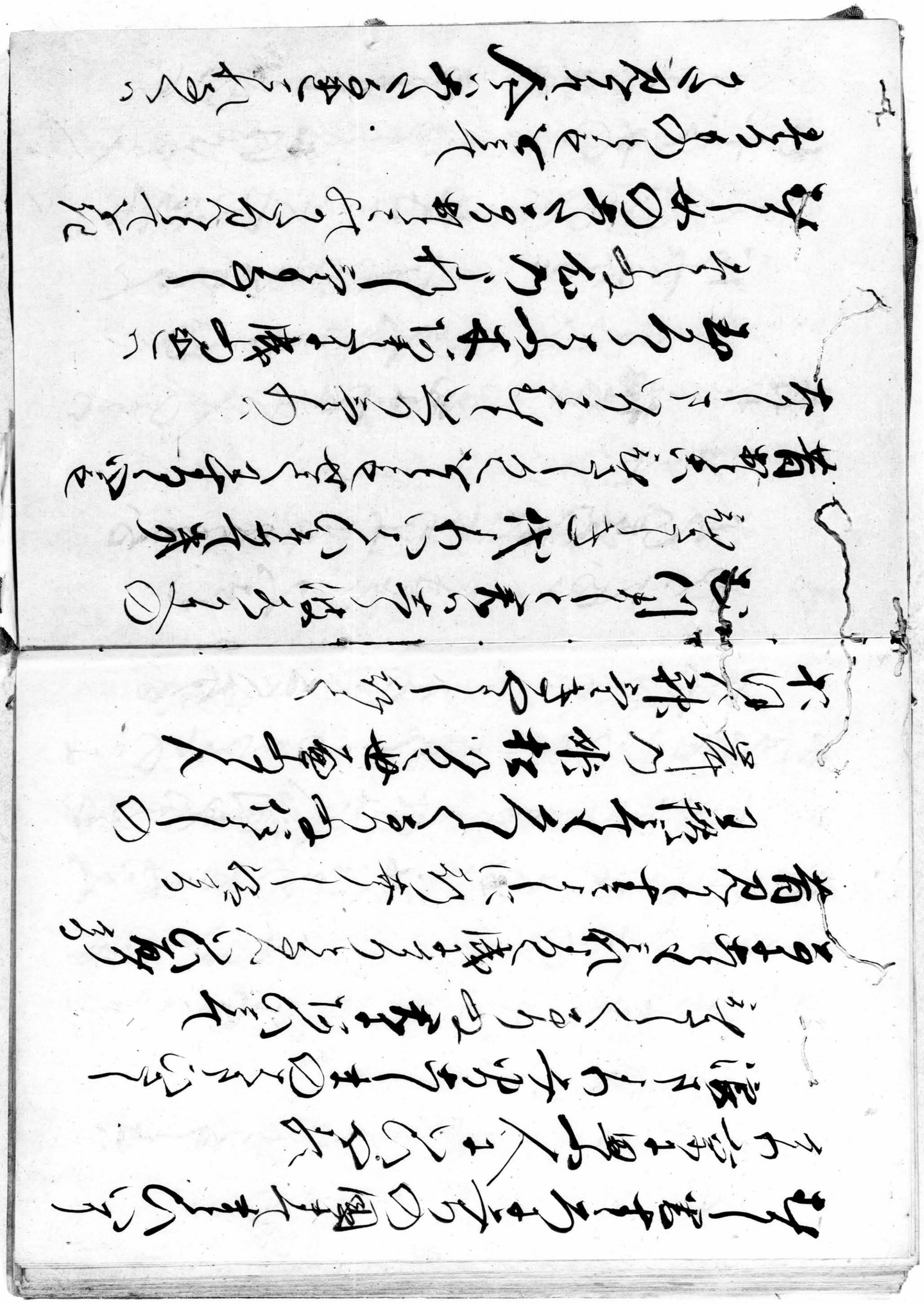
もし君ををいかかふかををいちを也ちと

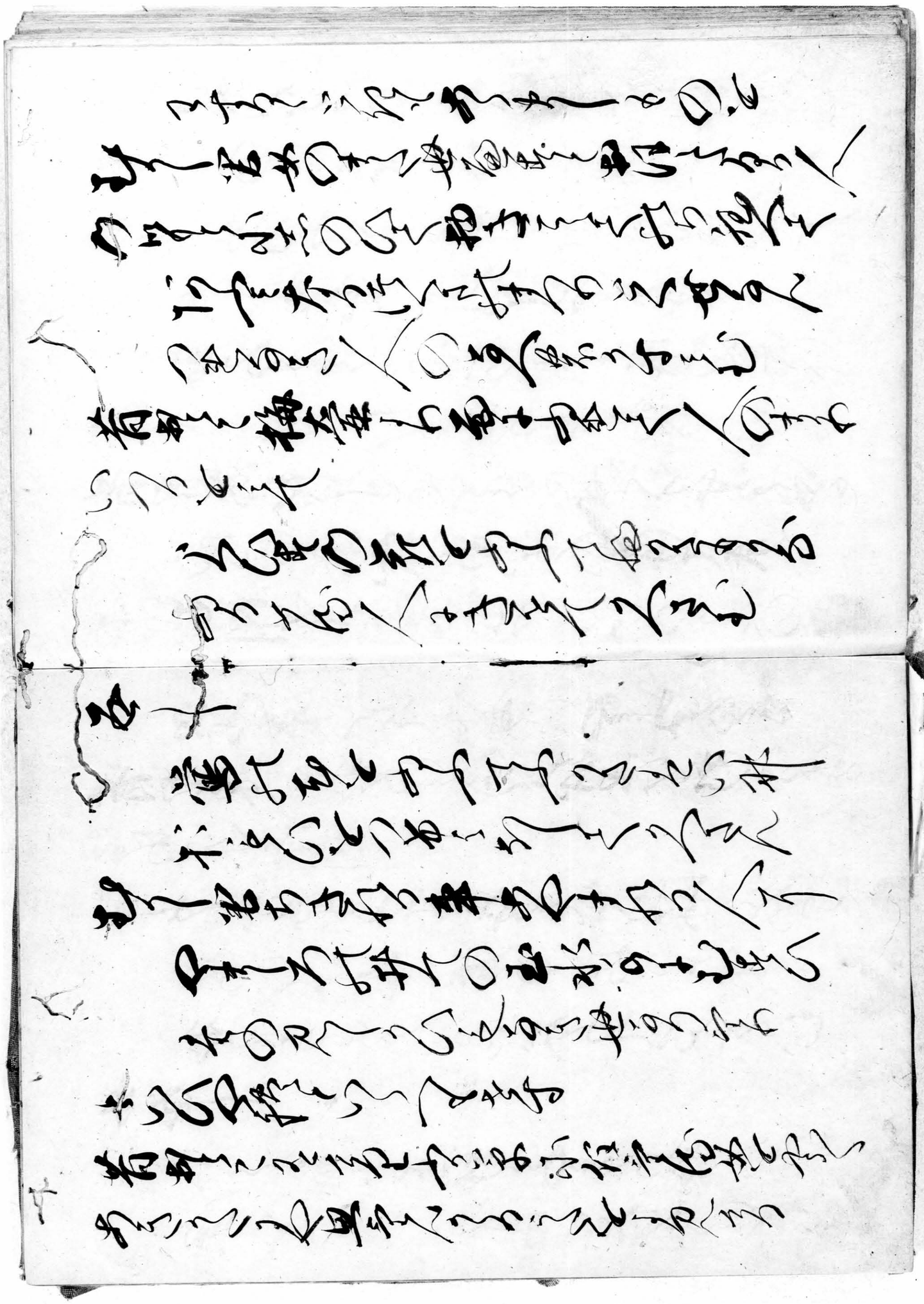


[illegible]

[illegible]

[illegible]





抑伊勢物語根源古人説〻不同説〻在原
中將自記〻因茲〻其端退況其〻親ホ
又云伊勢筆作〻尤 此三代実十三幼書
是故号伊勢物語以此西行[illegible]集文雅
〻〻公中私密身上無言他人推知注〻以
之可謂其自書然但為要古風中多載撰
集〻〻齊仁和聖日之間粗死除牽〻儀
代お事又不審伊勢家集其端〻文雅俗
以同〻是〻又丹人先達曰死唐未其卿欲

西不知之如之代拙筆久字非仮筆去何
梅伊勢平沈流云為指使下向四之代名
吉其流又勉信始則我南京春日之綱
沈流西村東月之田富士之山雲武蔵野
之姫凡非伊勢國事多以為世物語之
所以西流古之事兵作五法
又沈流云婦人以拙筆[redacted]
詔為叶伊勢物之道理也件本猥備寄
恢者伊勢所為之不用之

先年所書之不為人所借失仍為
後證本之而校合之

宮内卿尚書左判

述代以拙筆為詔之不知其代之
人今事也又不云用之
代拙語古人云流不同沈云梅吉中物之用
書沈梅伊勢筆仮流代之書法本
本上古之人淳不一器也其化本以可既到要
言業而已

以祖父公去年不遠一字書写校合之可
愈然者矣

藤為相

戸部尚書左判

益軸圖書之印

٢-١٨